

沙石集 七・八（天和三年版）

楣山文学園大学デジタルライブラリー

楣山文学園大学図書館



波石集卷第七 上

目録

眠正信房の事

恩癡の僧文字もうどう事

老僧の年くどき

死の道もうかが人の事

歯取子

紫薇山房藏

阿波岐曾鼓歲書



9181894

沙翁集卷第七 上

正信房の事

和列菩提山は本教僧匠の房也。忠寛正信房と
之僧わきり。向うに称すりけどハ称する
正信とぞ。ナム。拂舍利縗の法用散華もく
ら。唄をうなよ例の種うりひと唄とうり
て。そをうり。傍れとく。けを種うる
又物忌なう信とく。錫杖とく。年執錫杖と
編り。り。やくもれて。唄と思ひて
まう。まう。まう。まう。まう。まう。まう。
耳も。徳不忠。冤も。まう。まう。まう。まう。

とくせり。アセバモアホ。アヒカニアシキト
ハシタムシナガのまゝひげうと。アラム。
アリと作わセヌ。アモル。アヒカニアシキトハ
ト指テ。アヒカニ古ノまゝひげうミアド
シ。或時。ハ湯の後。汗。アモル。アヒカニ小袖。アモ
セモアラウリ。例の物。ハアモル。アヒカニミ
ヒテ。アラウタツ火。アラアリ。アヒカニ
アヒカニ。アラアモル。アヒカニアヒカニ作ハアリケレ。ア
ヒカニアモル。アモル。アヒカニ小袖。アヒカニアヒカニ
アヒカニアモル。アヒカニアモル。アヒカニアヒカニ
アヒカニアモル。アヒカニアモル。アヒカニアヒカニ

いづれにて別事かうをり。え生アハ
サク。が生とてさくも祐うりアマニ。釋
因習果とさすゆり。まくまくあら。ア
心よ思ひまし。身よももとあら。ア生とさき
さとわひつてわよもと。桂。アア
は。アア被恩とゆくなり。佛の法界と全刹
弗ハ。ア百生蛇とあうりか故。眼患て相及
る。難陥公にあきう心ゆく里りう。羅漢の
とげて後も。ア女人再見とくりう。難陥と
併の法界なり。悉達を。ア出家の後も。魔王
の徳と。阿弥陀にうきりう。出家の朝と

あるとて思食。ア。佛沛鉢と持。ア。難陥
家を乞食。ア。難陥市鉢とうちく。飯と
あく。ア。ア。ア。ア。ア。ア。ア。ア。ア。ア。
経ひね。阿那かげ。ア。ア。ア。ア。ア。ア。ア。
ア。ア。ア。ア。ア。ア。ア。ア。ア。ア。ア。
金ぐりて金と。佛出家と。ア。ア。ア。ア。ア。
髪と。ア。ア。ア。ア。ア。ア。ア。ア。ア。
ア。ア。ア。ア。ア。ア。ア。ア。ア。ア。
佛の威よからきて髪と。ア。心中アハア。ア
ア。ア。ア。ア。ア。ア。ア。ア。ア。ア。
ア。ア。ア。ア。ア。ア。ア。ア。ア。ア。

陳身^{スル}事一ゆりんと思ひて。寧のキシムとだれか
シテ^{シテ}心をとづきてあじりありとづきを
東むくがまこすも我國王となりあす。まを
ゆくす。まのめうゆくらとど。けのひき^{ヒカ}を
し。はほとさんと思ひて寧のたまと
きハ佛のゆりゆりんよわひだてもんるす
ももきて。小路のゆき。佛もうぐうで
小路のゆりゆり。佛と大衆とゆりゆり
もうぐれど。本のかりて。か。佛の
ゆりゆり。本の事とゆひみて。難陀^ハ禪^ハ
修^ハ。日本^ハ事とゆひみて。難陀^ハ禪^ハ
修^ハ。集^ハ。う^ハ。向後^ハ。也。豫^ハ禪^ハ修^ハ
く。まゆくゆくゆく。ゆくとて又真^ハ
寺^ハゆりゆりひぬ。佛玉^ハ後^ハて。ゆくとくゆく
たり。富山^ハ。さんとくふく。沙衣^ハ。そそ
よううつれて。奥^ハてれり。ま。富山^ハとあ
く。う^ハゆ。書^ハ猿^ハ大にゆりて。盲目^ハなり。り。
伴^ハ回^ハゆり。汝^ハ經^ハと。豫^ハ禪^ハ利^ハし。これ^ハうと。
う^ハきり。もとと。谷^ハく。もとと。豫^ハ禪^ハ利^ハ笑^ハ
う^ハな。う^ハび。う^ハ人^ハうと。たと^ハべ^ハにあ
もとと。う^ハう^ハゆりゆりひぬ。又天^ハやもとと。う
作^ハ。う^ハき。う^ハ。御衣^ハのまくと。う^ハまく。
物利^ハ天^ハ。具^ハ。のうりゆる。天^ハ上のうもむ。

天人の體内と同一に出たりたり。あくと云々。
釋迦天人され丈婦ともなりて。或天人女天に
ありて。男天なり。佛もそのへと向うえ
もう。佛天人はとつし。難陀天女は故をう。
天女眷属く。佛の師弟よ。難陀と。アリテ
人持戒の德よりうて。此天女生して。我まう
る。とづ。佛難陀は同族く。がんぢがんと。
この天女とづきくまでもうと。眷属く。
雪山のさばの猿飴利よどともうとづりを猿飴
利。飛とまくもとづり。そ。高海ようづく。
これ天女の事と思ひて。后の事とづりをまく。

心小戒行とゆりうて。天よ生者ん事と称す
る。名とて。難陀坐とうる事あると。案老比紅
産とづらうて。一座に座むる僧た。阿難
乃至にゆるよえうち。難陀のそく。ゆぢ
と戒とづと。すり。がくとて。座。座。す
と。解れ僧衆の座むる事あるゆく。ちよ
かく。とづふ。難陀。汝と解うと。その
意樂と。とづふ。のゆ。内産せば。汝ハ欲の
うす。戒とづら。汝ハ涅槃のたゞよ戒と
うす。汝心り。がくと。一川度にあらず
う。汝とづ。佛又。汝地歎やさんを因よおとせ

歎息^{タクシキ}。身^ヒをひりてまへば多^{ハシメ}と八熱等^{ハタチ}はり。かく地獄^{ジエイ}を経^{スル}るを爲^スる罪人^{ミムシ}ありて今^ハとがく。其中^ノはあつ地獄^{ジエイ}釜^{ボウ}を獄^{エイ}率^スをわきむる罪人^{ミムシ}也。佛^{ブッダ}に向^カくとまつる。佛^{ブッダ}獄^{エイ}率^スもこり^リ。難地獄^ニ率^スもあのう^トと云ふ。獄^{エイ}率^ス名^ニて^ス。難地獄^ニ率^スも。難地^ニと^トなる。僧^{サマ}持戒^{シケイ}を^{シテ}。佛^{ブッダ}の師弟^{シテイ}也。難地^ニと^トなる。僧^{サマ}持戒^{シケイ}を^{シテ}。佛^{ブッダ}の方後^{カウ}也。千歲^{チサツ}の樂^{ヨリ}を^{シテ}。其後此地獄^{ジエイ}水^{ミズ}を^{シテ}下^{アシ}。そり^リ身^ヒを^{シテ}。是^トと^シ。身^ヒを^{シテ}身^ヒに毛^{モヤ}を^{シテ}。天女^{テンナ}が^{タマ}毛^{モヤ}を^{シテ}。涅槃^ニたつ。戒^{カヌ}と^シり。はゆ^リ。羅^ラ華^ハを^{シテ}。華^ハと^シる。佛^{ブッダ}の方後^{カウ}也。り

りと^シと^シの^シりと^シりと^シと^シと^シ引^カて道^ト入^カせ^シ。是^トを^シ。づ^シの^シ人^ヒを信^カむ^シ。身^ヒを^{シテ}變^カと^シり^カ。道^ト入^カ今^ハ世^ノ人^ヒが^クの^シと^シれ道^トと^シり^カ。も心^トう^シと^シび^シて^シ魚^{ウニ}と^シく^シく^シや^シ。も^シう^シた^シの^シと^シば^シく^シる時^ハう^シと^シと^シり^カ。音^トう^シか^シ財^{カシ}樂^{ラク}と^シひ^シ。身^ヒを^{シテ}の^シと^シり^カ。う^シか^シ。難地獄^{ジエイ}を^{シテ}小戒^{コケイ}となり^カ。釋^{シテ}國^カも^シも^シと^シや^シと^シか^シ此^ト事^{アリ}。聖者^{セイガ}と^シり^カ。於^{シテ}習^カ因^カう^シ。凡^タ丈^ヒい^シで^シの^シう^シか^シん。又^シ佛^{ブッダ}。阿難^{アヘン}と^シり^カ。道^トす^シぎ^シよ^シ。因^{シテ}と^シ者^{シテ}三^ト人^ヒある。一人^ヒ佛^{ブッダ}の出^シ世^{アヒ}。禮^{ハシメ}。

まくアトモ。平ロミモテ。佛の石に禮。一
人。佛ハラモ禮。一人。今日サヘハムク田
シタモ。難ハクナム。因縁アリテ。一人ハ禮
キム。一人ハ禮。たまムニ向キモ
マス。佛のニ歎。二人モモセ佛の出世ア
ラム。一人ハ今日のニセ佛スモニ禮セビ
シテ。今ヨモ善根の因ウツトセ作セシム。
此懈怠の習果アリ。じつれ心と習因セシム。
モモホシム。又の心のたゞ。而ハつ
内モモホシム。又の心のたゞ。それを貪欲嗔恚
等の心ナ。ハヨモモホシム。人ハ。生ミト命ミテ

カハ。アトモモ。モモモモトガリ。對
治ハ觀念減罪の方法。トツトナシダ。右の
ツク熟。ヤハ。心とモモ。カモ。カモ。カモ。生
ミト。ツク。モモ。モモ。モモ。モモ。モモ。熟セ
ム。モモ。ハ。無始の煩惱妄相。終ム。モモ。モモ。
モモ。モモ。モモ。モモ。モモ。モモ。モモ。モモ。モモ。
モモ。モモ。モモ。モモ。モモ。モモ。モモ。モモ。モモ。
モモ。モモ。モモ。モモ。モモ。モモ。モモ。モモ。モモ。
モモ。モモ。モモ。モモ。モモ。モモ。モモ。モモ。モモ。

の如くハ流物アミシヒトモリハシキ。トモクビガ
ハシム。佛道修行トモクセニハシモ。シテ、
菩提ハ道トヘン。古德トモク。勇士陳ト交テ
死モドコニ歸シ。シテ、
又まれ道トジシ。何の
辭モウナラム。初タ入ハ恒モ難一。な
易モトアリ。難トヨウタリ。ナリモクシテ、
却アリ。底ダントソリ。ナリ。ナリモクシテ、
も。流物生死の妄業。モアモモアボツコモ。出
離解脱の因ナリ。正信房が極ナリ。モリヒテ、
我心ノタラシム。海シ。非と考て、
我心ノタラシム。此卷トハシシ。

あひす。心ナラシ道ナリトナリ。嗚呼、
トシ事ハ。一旦人の手ナリシモ、ナリ
ナリ。世間へわざああるゆく。人トカタマ
シ事ハ。羅障のアカガハニナリ。エレハ
アハム分正直ナリ。ナリ思入角シヨツヒ櫻舞。
色代をあく。角アシト心ナリ。ナリ。是にナリ
く。人トカタマタラ賤ナリ。金剛般若經に云、
此世人トナリ。ナリ。ナリ。ナリ。ナリ。ナリ。ナリ。罪
業ナリ。ナリ。善提と得ナリ。ナリ。ナリ。古人の徳を
ナリ。ナリ。此意ナリ。ナリ。失とか。徳とか
も。ナリ。ナリ。小道トシ。中比義作の家ナリ。

りりんれりく。まうう信ありて。せとらつ
じ事あき。いわう今をそへ。おひり
たまえれりゆつへ。何すよやとよ。お
みゆのくとくりあきどもと思ひりのゆ
よらひく。とあるとうねと。たゞなぐわ
うかで。ゆうだまうあざ。我身のうは
侍うつよ。まうが身。とくうりて。別
くはおとせ。食ねとく。たくゆう。おとく
わうさんや。物とづり。まほ氣色もひ
ひき。おつまえとて。やまと事。けり。そ
べとくとくとくとくとくとくとくとく

けくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
おひくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
山ねね。まうくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
あうり。たまうとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
の店たまうとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
今うとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

ひらりて人をすりき。而して直人ならべ
と代の人の意へ。とて御かりにて。
て。安居れ食といひべ。若愚闇黙といひと
あらと。流精生死れ者とやどせ。愚業と身
身はくまば。妄念と心に不淨をもとて。智者
道人よりうづく因ひを方く。天人佛陀氏知見と
色立ちくべ。妄魔王。冥官の呵責とももまれ
ざんばど。とく事わ
たゞもじだく。さうとしゆくど。お
患とくべ。此故本妄業とやの道のとす
まんこめ。とく事わ
古人の多く。通念。情念。計
滅佛もうち事多時。妄念。妄念の凡たり。直
会ハ佛也。此ゆべよ。只妄念と云ふをも。如く
佛也と云う。佛性本來是あり。たゞ妄念
さうが妄念。妄念をも。道念すれ事無
鳴呼。角。こゝとなりひも。世間ノ事
愚癡の僧文。初う事

あか山寺に所れなし。ひうて法華仁王二經
僧こして。暗誦。一抄り。中。文。文字少
むうで。是くう。愚僧か。其中にあか

或僧。師ノアヅト何ノアヅト大般若と云ひ
クルノアヅト言ひつゝ事アリ。障房ノアヅト僧
ミアヅト。何經アヅト。ソニ何經。僧ノアヅト。
師ノアヅト。何經アヅト。ソニ何經。僧ノアヅト。
法師ノアヅト法花經と云ふ。法花經ナセノアヅ
ト。ソニアヅト。ソニアヅト。一帙。アヅト。ソニアヅト。
隣房ノアヅト僧來アヅト此經と云ふ。ソニアヅト。斯
の屬ナセアヅト。何經アヅト。アヅト。法花經ア
ヅト。アヅト。アヅト。文字ナカツアヅト。ナカツアヅト。
來れ。アヅト。アヅト。アヅト。恩癡ナセアヅト。モア
愚僧阿ヅト。經ナカツアヅト。持ナカツアヅト。中
り。俗。アヅト。房アヅト。持ナカツアヅト。奉行エ
ナカツアヅト。ヤツアヅト。持ナカツアヅト。僧アヅト。
僧アヅト。持ナカツアヅト。ナカツアヅト。ナカツアヅト。
ニ。僧アヅト。恩。アヅト。ナカツアヅト。ナカツアヅト。
又。文。ナカツアヅト。ナカツアヅト。ナカツアヅト。
ナカツアヅト。ナカツアヅト。ナカツアヅト。

般と刀とく。船かくもひりれ。がくの僧を
有りうる。わざり不思議は行ま。末代によ
かうむる。月藏分の中よけり。有戒無、
戒破戒。乃至頭とも。袈裟。般若心かく。とくとく
らん僧とも。繫縛。般若。禁閉すく。じ
うれし。比丘。清淨の比丘の中よあへ。
法よりきて寺と出よべ。一毛とたるやもせ
も。圓小よくひも。善神圓とあり。隣
國あひゆしが。圓重持て來。どどど
毛と毛を俗人此心とあむ。傍と信施を
もと。どもが得失とくろふ。達に

カク。俗ハ佛語とあり。て。だやもく治罰。ど
リ。千輪經大集經。と。へかれて。涅
槃經。は。破戒の僧持戒の傍と。やまと。圓王
大臣。彼破戒の比丘と殺害。正法とまり。七
天戒とたり。びて。兵杖と帶。と。佛法を
護持。と。と。と。じ。と。乞德比丘持戒
清淨。かく。て。たまと弘通。セ。と。破戒の比丘を
そそぎ。殺害せん。と。に。有德王軍。と
あ。こ。で。破戒の比丘や。たくひそ。され殺害
そそぎ。と。王族。と。と。うて死。と。此功德よ。う
あ。東方佛圓。第一の弟みとまれ。乞德比丘。

第二の弟子と生れたり。先徳先生と會ひ
れ。二川の義とて。一川より。十輪經。半勝經。
涅槃經。出家とて。じ。一つ。半勝經。
公孫。涅槃。涅槃經。後寫の極統とて。涅槃
より。正法と因り。と。う。まこと。眞實
の正法。れたる。まこと。れ。執情がく。涅槃を。涅
槃。かその益。あらざるや。

老僧の年譜と事

武列。西王の阿闍梨と云。傍生を多も。師年。
ひ。う。よ。か。彼。は。く。人。向。け。き。ハ。辛。よ。有。
つ。き。の。角。く。く。か。モ。七。千。中。と。の。ま。う。て。く。く。
不審。み。是。く。て。辛。よ。は。い。く。シ。キ。わ。き。う。無。
れ。き。を。え。で。十四。年。よ。り。て。ま。す。ぬ。と。ひ。り。
も。あ。の。あ。き。り。あ。り。ク。る。辛。と。つ。う。と。う。き。六。
ナ。と。つ。を。と。う。と。う。心。地。と。せ。か。く。つ。ひ。く。の
は。の。れ。心。な。う。も。色。代。あ。と。山。下。う。と。く。う。と。
く。心。下。う。と。う。心。下。う。と。う。心。下。う。と。う。心。下。う。
老。て。こ。と。心。下。う。心。下。う。心。下。う。心。下。う。意。あ。
ハ。ハ。と。の。心。下。う。此。心。と。う。く。く。思。バ。人。間。餘。
執。は。う。か。く。く。て。此。か。り。う。ふ。身。の。お。く。
住。處。を。心。と。角。り。妻。子。眷。屬。と。う。川。よ。波。打。
執。心。あ。う。故。一。老。病。も。死。苦。を。身。を。活。く。

ゆく事も心なき。のづかづと道す
あはれ。しあつて体をうへ。多めに
うめく。業にはやくらへよするもき、
身なり。此身は父母の遺軀。とうも。又地氷や風
とかりうつてほくさう。かくまで地のまこと
の水ある。かくは風なり。此中
思。我れたのじつさのゆ。心こそ我といふ。
不妄心も妄境とゆ。て。今もよろず幸
刹那くよ生滅して。あづくもとゆ。幸
か。身をゆたのじつさのゆ。息たぐれ
じゆせん。身とす。うつてゆ。わくうかのゆ

ハ風にかづ。かくまへ地より。風
さりあひゆ。さりくわ。こゝゆ。そらうけ
ゆ。じだく。本ひとく。て。焼火薙となり。さ
ゆ。もとなら。さくもゆ。ゆ。ゆ。根うころ
事と。の。樂天が云。古墓何の代の人を
不知姓與名。代作路傍土。年々春草生と。ゆ
とに。むろそらばみづけども。時もととせぬ方
すと。すれ。錦の手と絆とくわ。もどもゆ
る。筋をかく。何事。うれ。勲心と。ゆ。ゆ
あづき。又づく。筋骸本無實。一束芭蕉草。奉

属偶相依。一夕同林鳥。亦有相依事。
事。不。可。信。也。又。變。一。鶴。事。不。可。信。
と。う。り。げ。も。う。な。が。身。ま。く。く。れ。体。う。
ひ。一。佛。法。と。ゆ。じ。通。人。あ。う。う。或。山。中。
と。ゆ。く。二。人。山。中。一。人。ハ。財。と。く。
れ。あ。り。又。う。う。べ。一。人。ま。で。か。ま。じ。う。の。す。
毒。蛇。の。ち。よ。き。も。く。ほ。ま。う。に。死。せ。り。又。け。
く。氣。え。な。く。て。此。道。人。よ。う。る。そ。く。う。の。
れ。金。糸。通。の。や。く。う。よ。家。あ。り。と。我。あ。り。と。
も。と。う。食。と。う。そ。あ。う。一。只。今。此。す。は。
ひ。に。死。せ。り。一。人。ハ。食。と。う。そ。事。と。は。あ。り。
経。ス。ー。と。う。道。人。又。み。れ。ま。く。う。な。
り。め。る。一。鶴。歎。れ。え。な。く。と。う。よ。養。ら。く。
つ。く。人。の。歌。子。ハ。う。つ。れ。き。う。な。く。鳥。れ。む。
林。に。う。り。の。く。あ。れ。が。か。く。く。よ。能。ま。れ。
じ。一。れ。葉。ふ。ま。も。セ。て。鶴。を。別。う。一。鶴。
を。け。ま。う。あ。ん。ま。て。み。富。の。く。て。ま。き。女。
人。食。抱。と。う。く。門。よ。あ。す。ま。く。く。く。て。財。ば。
え。ハ。と。て。一。人。食。と。う。じ。家。の。肉。よ。老。女。に。里。
傍。よ。彼。死。や。う。人。ハ。ま。の。声。よ。う。や。う。よ。う。
參。よ。が。や。が。り。ま。れ。す。一。さ。な。れ。と。う。と。
と。う。う。り。く。て。さ。母。の。聲。う。わ。く。う。う。一。鶴。

アラカニヤム岸よつまるとも。らうりく不
ナラゲトム。あく業はゆゑやくり。聖
トモウカツモアシドウツ。又、れ世人よ。え死
セシ人。トモハシキナム。シテ、ソノ。我
男キリモトツ。ベニナギシテ、タリ。我
ツモ、物とナリ。テ、夫婦のカクシハ。希
人のゆきあるく。要事するわきも。すく
ちうがト。シヒト、ミナヒヨアシ。シヤ
リヒリウ時。二道人。萬法の因縁。トウホ
心あり。スベ。在家の人の中。トス。シハムミ
ガリ。慚愧の心。トス。法法の因縁。幻化。虛妄
の事。トナリ。シテ。それ。アラカニヤム佛法。トモウリに
アラカニヤム。無常。變。世。幻化。虛妄。の事。モトナリ。さ
て。モワニシマス。ノ。箱。長生。のトウヒ。モナリ。
不死のトモウリ。服。サハ。シカ。多事の道理。ト
モナリ。常。御。アラカニヤム。佛法。トモウリ。ア
死。アラカニヤム。人の事。

鎮西。小土佐の寺主。といふ僧有リ。モリ。う。僧
モアシム。カクシテ、アリ。ハ。会佛。モアシム。
一切。善根。モセシ。年來。ハ。身。アラカニヤム。佛
道。アラカニヤム。会佛。モアシム。善根。モアシム。アラカニヤム。

おまつぬ。そのゆへ日來ハとゞく死ぬべ
差し。死ぬる事うそ一も後生れども
死りきと思ひて。おやまの死きぬたり。其
まづはとくとんとおやまの事きぬたり。其
故に父もおやまの死よみがりぬ。母
てもおやまの死よみがりぬ。母も父も見
ゆき。左房門尉と死を覗。死しゆ三家
もおやまぬ。あやまの死をひき。お
信へさへまつて。せりんれいと表へて。ひき
なごみ。げよまれ人のあらびくふて。おやま
危ひき。あらびくふて。おやまの財利
を何せん。冥途の資糧ゆくよ。おやまの
道ゆんそを心れむ。おやまの出でゆか。汝
してゆめうかくもなく。たのうう体もか
く。あらびく黄泉の旅。うづく事とよ
く。おやまとわらうてよ。おやまの常の道理と
おやまちうじふきと。おやまの常の思ひよ往
く。百年れなくもひとがよづかに寄
り。おやまの西よ波とたくうち。一生ハ活くよ。お
希望へつさかへん。常れや。お常ともかと
知れぬは。熱心のわれとなれと。おやまと
見てゆくのじべうば。じー阿育大王。南闇

浮提ノアマドニ。よく佛法奉歸。と滅後百
年。王なまを。正法は。三紀。羅漢の聖者
あり。雞雀寺の僧ニ第凡羅漢と。宮に宮の
中。小徒。供養。多ひり。大王の弟の阿
輸伽。佛法と信せり。衆僧の供養。うかこ
そそく。少々。大王弟は。夜。傍ハ
供養。うけた。無常。とうべんじゆ。又。敵の境
よ。看。と。本。う。と。阿輸伽。此。と。信せば。大
王。調伏。や。と。思ひて。王位と。弟。ゆ。う。と
す。し。阿輸伽。其。角意。り。と。う。か。ひ。く。彼
定。一組。圓。化。位。と。そ。め。七日。間。南闇。浮提。の。ま。と
す。と。え。歎。た。一。も。よ。ゆ。く。命。七日。後。ち
殺害。と。下。そ。て。宮。内。肉。身。守。護。せ
じ。施。施。羅。と。仰。身。あ。み。金。と。う。て。一日。と
て。お。す。き。ね。六日。後。り。て。害。と。そ。ま。う。る。
と。つ。が。く。れ。じ。く。乃。至。六。日。も。そ。に。と。き。ね。四
つ。一。日。わ。り。て。害。と。す。と。い。う。し。う。金。と。う。る。
耳。入。く。じ。の。ま。う。り。て。又。歎。境。う。く。皆
か。く。ど。太。主。使。者。と。居。り。と。向。て。く。ま。う。
王。位。小。居。て。い。う。づ。り。れ。た。ア。と。あ。る。と。阿。輸。

伽王^{カシワノ}。旅^ト隠^ト羅^ト。鈴^トの音^ト。身^トと^ト財^トも
身^ト水^トそ^ト。天^ト秋^ト。境^トも^トど^ト見^ト。身^トと^ト財^トも^ト
晝^ト衣^トは^ト無^ト常^ト。觀^ト。一^ト心^ト外^ト道^ト。假^ト。^ト自^ト在^トり。初^ト果^ト。後^ト大^ト王^ト
是^トと^トの^トう^ト。喜^トる^トと^トり^ト。是^トか^トど^トも^トそ^トれ^ト
心^トあ^ト。月^ト日^トれ^ト。と^トぐ^トか^ト新^トと^トく^トん^ト付^トく。
鉢^ト乞^ト。鍾^トの^トあ^トと^トく^トん^ト付^トく。今^ト日^トれ^ト。あ^トら
と^トて^トに^トす^トま^ト。何^トま^トり。何^ト日^トぞ^ト。思^トつ^トば^ト。座^ト六^ト
欲^ト。素^トみ^ト珍^ト寶^ト。名^ト文^ト利^ト。養^ト富^ト貴^ト。榮^ト耀^ト。が^トな^トり^トの^ト
心^トと^トう^トじ^トま^ト。羊^トの^トあ^トと^ト心^トに^トう^トり^ト。水^トは^ト魚^ト
多^ト人^トと^トき^ト。道^ト業^トと^トり^ト。淨^ト土^トと^ト你^ト
毎^トづ^トな^トり^ト。流^ト情^ト生^ト死^トの^トざ^トれ^ト。身^トと^ト而^ト
心^トも^トす^トき^ト。そ^トく^トは^ト月^ト日^トも^トそ^ト。は^トり^トげ^ト
真^ト達^トと^トり^トと^トき^トん^ト事^ト。と^トく^トと^トう^トれ^トひ^トと^ト爲^ト
一^トく^トも^ト。是^トた^トだ^ト無^ト明^トの^ト湯^トよ^トら^ト火^ト惱^トの^ト思^ト
た^トや^トゆ^トき^トや^ト思^トひ^ト。と^トく^ト長^ト安^トの^ト神^トづ^トう^トを
む^トく^トう^ト。は^トき^トと^ト生^ト死^トの^ト事^トと^トう^トい^トう^トと^トる。
心^トあ^トり^ト人^ト。真^ト達^トと^ト用^ト意^トと^トう^トう^トな^ト。か^トべ^ト人^ト
じ^トに^ト射^トと^ト思^トう^ト人^ト。た^ト一^ト郡^トの^ト業^ト花^トと^トう^トか
り^トひ^ト。今^ト日^トう^トあ^トそ^ト。が^トく^トど^トゆ^トく^トて^ト。真^ト達^トと^ト
ひ^トの^ト用^ト意^トな^ト事^ト。と^トき^トと^トう^トう^トう^トう^トう^トう^トう^トう^ト
如^ト夢^ト。僧^ト都^ト。大^ト井^ト川^トの^ト市^ト幸^ト。三^ト衣^ト箱^トつ^トき^ト。

鳥帽かみふと用意うめいして。泉大將の鳥帽かみを石川
風かぜのあにてさへそりりう時。取出だきだしてある名をすが
り傳つたゆき。而して人ありてゆくて、道は支度い
めこりする人ひとも用意うめいなし。とぞううすと。眼
花重職かきまきもありて仰あおむ。余つたままのうりねぎば
遍まん去こ今生代じゆうだい業わざもぬ。而して惡業多いたくいもと。惡趣
よようくよようくよようくよようくよようく事ことと思ひつゝ
よようくよようくよようくよようくよようくよようく事こと。思ひつゝ
よようくよようくよようくよようくよようくよようくよようく事こと。思ひつゝ
のりととりじじづきがり。醜陋くびやうの門もん。よきよき
移うつしてのち。日藏ひざむ上人じょうじん。承平じゆへい十四年四月十六日
より。坐すわる。坐すわる。岩屋いわや。とりゆ。四月二十八日午
時。頓死とんしきして。四月二十三日より。うつて。冥途
の事こと。とあんからうりけり。而門もん。四門よんもん。方
山ほうさんの。多く。四丈丈よじよじなり。其うち。小。佛堂屋ぼうどうや
を。がり。がり。我の寛平法王かんへい。乃。而より。有あり。在
住すわの間ま。八つ。れり。三。罪ざい。あ。う。ま。法室ぼうしつ。以よ
し。三。事こと。と。苦無相くむあいの事こと。并そなに。多。神じんを
圓えんめよ。此。苦患くげんも。うつ。うつ。而より。有あつ。と。

わうタモ帝とニ召し。シモホヘニ御上等
アシカナリ。帝ソリハ御夜トリ。シ
アハミカナリ。トモノハ想入トナリ
ヒセミタリ。ト人此事トテモハ語りシ。トモリ
語りモト。冥途トハ貴賤ト論セシ。罪多
トナリ。ト人此事ハナシテ。出外
ウタカツ。上人ナシ。トカツ。山毛
出リ。山毛トナリ。高岳ノ御上
此心ト續絶フ。トモヤ。

づあく那落の底ホヘキハ利利首胞も縛シ

歯取事

あが。歯取唐人。アリミガラ。シテハ人。財貪ニ
利簡トミシ。事トモシテ。行さない
心トナリ。得トアリ。シテ。シヒナリ。ト
セん。唐人。アリトヘ。アム。アリ。アリ。アリ。
鐵ニメヨミ。シテ。一文。アリ。トナリ。アリ。
タリ。事。タリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。
アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。
アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。
アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。
アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。

とくにひのる。たなう様なり。毛髪もよば
ど。大身とあらう事。おとづれとこそよどむ。
たゞ一世人の人の利養がうそうきへ事。に
かく利身とよみや。因果の道程もよば
富來の苦果。とよみや。など。たゞ眼蓋にまばら
の利よりきて。身の後は菩提の財寔と
ひ。佛法の利とねざま事。つゝともがりき。上代
を。心まれりて。欲かくして善根といやなまし
毛髪。とよみや。心に。とよみや。殿の。平等院
と建立。のゆ池堂供養。わくじりよ。山僧ア。

師も禮。経の。施主方。此佛堂建立。故よ
地獄よりらす。也。経の。事。あくまでも。興。あて。有
とあくまでも。聽。の。人。までも。興。あて。有
ひづりよ。佛供養。す。い。て。此罪懺悔
作。づき。作。き。と。此佛堂建立。の間。非。會。よ
人。と。や。ま。と。経。の。方。と。所。得。方。れ。也。づ。の。い
日。後。づ。日。出。づ。け。り。あ。ん。と。ア。ミ。き。く。れ。る。
も。く。ち。の。ま。も。と。人。ま。も。い。と
ト。れ。方。と。そ。た。ま。ひ。り。よ。と。教。清。淨。れ。信。心。あ。ま。て。
く。や。り。と。教。せ。と。建。仁。寺。れ。塔。よ。た。ひ。く。の。寺。よ。

まぬもてアリ。やわうとや彼寺れゆゑと信頼
アリ。故梶原景時(きしら)のう候也。よく厚云
ゆきりよ歓(かほ)れ。多く。多く。よせとも人ともも。
み。思ひも御みくらしきもけり。建仁寺(けんじん)が教僧
正(トヨトシマ)の教化(カワリ)せ。被り。持ゆ。と。自業自得果
え。おづけ業(ごくわ)じふく。苦恩(こゑ)の因たるべ。苦樂
の黒と白の事もあり。せども、何處かして、いはゆ
ば。故大將殿の時。あれ軍(ぐん)はらうる。と。
作倉(さくら)。おもへば。んれりうひも。事。ゆくを
き事。しむひがふ。のそりひつよ。うそのやが
の。のぞむ。と。
うふと思ひ能く。ば。たゞ。うふ。うふ。うふ。うふ。
て。おとぞう。後世善根(よしの)と。うひ。うひ。うひ。
く。善教訓せ。せり。あたずの道。せり。と。
うひ。だ。ロ。わ。と。うひ。うひ。うひ。うひ。うひ。
の。うひ。うひ。うひ。うひ。うひ。うひ。うひ。うひ。
うひ。うひ。うひ。うひ。うひ。うひ。うひ。うひ。うひ。
あとうくもあなり。自業自得果の。うひ。うひ。うひ。
うひ。うひ。又せにあつては。事。うひ。うひ。うひ。うひ。
うひ。うひ。うひ。うひ。此うひ。うひ。うひ。うひ。うひ。
うひ。うひ。うひ。うひ。うひ。うひ。うひ。うひ。うひ。
身れ。うひ。うひ。うひ。うひ。うひ。うひ。うひ。うひ。
れ。うひ。うひ。うひ。うひ。うひ。うひ。うひ。うひ。

おめだ。今まうりてきみやうと。當來いたのく
くうそゆきせよ。何うきく。うぶ。く罪うそか
さかうわく。けり。こえ世うき。うづらせうそよ
ひうく。や。意うそ。今ハ世うそと人をも
うそ。信うそ。若知識。うそ。意うそと人をも
うそ。我身も持齋。うそ。真言とこなびうそ。
うそ。因うそ。信うそと。外うそ。徳うそと。うそ。
大ナラ庄と三所信うそ。信うそと。うそと。うそ。
信うそと。時ハ。うそ。感うそ。事うそと。うそ。
信うそと。故梶原。大ナラ。者うそと。うそ。
羅うそと。うそと。うそと。うそと。うそと。
うそと。彼若愚。うそと。うそと。うそと。うそと。
うそと。塔うそと。最上院功德。うそと。壹寺。中
多院。うそと。信函。うそと。うそと。うそと。うそと。
うそと。塔うそと。三石の石領れ。我と
翁うそと。三年の中。うそと。うそと。うそと。
うそと。人のうそと。うそと。うそと。うそと。うそと。
うそと。四度の事。うそと。うそと。うそと。うそと。
うそと。うそと。うそと。うそと。うそと。うそと。
うそと。うそと。心うそと。うそと。うそと。うそと。
うそと。うそと。うそと。うそと。うそと。うそと。
うそと。佛意。うそと。うそと。うそと。うそと。
うそと。佛在世。うそと。舍利弗。目連。

廣野城と。うそと。うそと。うそと。

タモ。思林うんざりあつたがて。きの少くを
その圓す。傍ありて。傍傍と。うんざく。人あり
杖本用達す。んざと。うんざり。人巻と。うんざり。
佛の弟みづへ。抱こよのせ。えこひき。うんざりに
けようり。ゆく佛は此事す。と。時。内弟みと集
て。具足戒の中。二つ戒を制。うんざり。我身の
ためよ。大なむ。放度。うんざり。大なむ。戒。制す
あ。うんざり。うんざり。畜類。もと。人の物。ふ
と。うんざり。うんざり。や。じ。林の中。うんざり。宣と。修
き。うんざり。心と。うんざり。修せんと。うんざり。
事。うんざり。うんざり。うんざり。うんざり。
此事。うんざり。うんざり。うんざり。うんざり。
の終よ。うんざり。うんざり。うんざり。うんざり。
て。うんざり。この日。うんざり。時。うんざり。我身の
も。うんざり。うんざり。うんざり。食。うんざり。うんざり。
と。うんざり。うんざり。うんざり。うんざり。命
と。うんざり。うんざり。うんざり。うんざり。
うん。此も。うんざり。うんざり。うんざり。うんざり。
て。うんざり。うんざり。恒伽河。うんざり。恒志。うんざり。そ。
行。うんざり。修。うんざり。向。うんざり。中。うんざり。大蛇。うんざり。うんざり。
うんざり。うんざり。うんざり。うんざり。うんざり。
佛。うんざり。うんざり。佛の。うんざり。うんざり。佛の。うんざり。うんざり。
年。うんざり。うんざり。うんざり。うんざり。うんざり。

玉とく。心作れども。よく梵志の如く代うひれど。
汝も小歎知足なり。故よしと。アラシ。くわりし
しりびつと。我玉へて。一つりくは寔なり。何よ
を。アラシ。の後へたゞどが。か因縁と
き経ひて。房戒とを制。一病ひり。もとを。佛法
修行の身事行ド。心も。じ。アラシ。もとと。上代の
人。意量を。たゞだら。ハ。樹ト石上。茅屋巖窟ア
テ。アラシ。修行り。中古より。此。寺舎。建。事
ゆ。や。アラシ。人の根機。も。まほゆ。アラシ。風雨と。房
も。病苦との。アラシ。り。て。房舎。な。事。アラシ
在。家。の。有。徳。の。檀那。アラシ。との。アラシ。事。アラシ。
アラシ。事。アラシ。じ。アラシ。佛。アラシ。て。道業。アラシ
し。アラシ。セ。アラシ。造。營。功。夫。アラシ。道。人。の。儀。アラシ
アラシ。アラシ。禪。師。アラシ。大。アラシ。奇。アラシ。アラシ。長。老
も。アラシ。アラシ。アラシ。様。アラシ。アラシ。アラシ。アラシ。
アラシ。寺。アラシ。佛。法。アラシ。アラシ。只。生。身。アラシ。アラシ。阿。羅。ナ。リ。
道。是。佛。法。也。心。アラシ。アラシ。アラシ。修。行。アラシ。アラシ。
アラシ。アラシ。アラシ。アラシ。アラシ。アラシ。アラシ。アラシ。
アラシ。アラシ。アラシ。アラシ。アラシ。アラシ。アラシ。アラシ。
法。の。時。アラシ。堂。塔。佛。像。アラシ。アラシ。アラシ。アラシ。アラシ。
人。恭。敬。アラシ。アラシ。アラシ。アラシ。アラシ。アラシ。アラシ。

まつり。古代の作法。佛の懸記。たゞべて。佛弟子は佛意をもしくまして在家の俗士。堂塔と建立し。かくは名門のたり。或は家のうち。りゆ。或は毛トトウ。有利と云ふもあり。或は酒宴の座席。詩歌の會。而して無禮の事。印。又は世間の雜具。又は客への寄宿。河川。減罪の行儀。生善の淨業まれ也。ちと遙營の間。人となやま。本とさうへ。非分の公役。んどもさうへ。貪る。き民の妻。ふどう。家財とづ。憂悲苦惱とく事。かく。若しハ多々うへきなも。ハ當時も得分。それり。あとも大なり換ひ。歯うへや。換うちも。むちこじ。き事。や。當來より恩讐れ若し。りまく。人同母生も。くも。病苦も。聞ゆ。ア。付法藏の三藏。廣く。智者。不。て。法華三藏の師也。重病。い。うして。苦痛。心のび。う。も。され。自害。セ。と。思ひ。も。の。法華聖。まうて。告て。ゆく。汝。自害。う。事。を。う。が。先せに。國王。民。と。や。だ。報り。

たとひはばくううす。苦へのどきが。以ア三
年何うてほくのひとうぐ。——
年とえぬ病ひ多うう。とく出家。——
生と惱亂。もう事と痛し。施物。とりらうる。
かうう。小歎知足。而て。禊子風俗。とく。あ
らま。末代。行儀。とく。眞實の道念
なままで。清淨の佛法。と名利のやうり。
解脫の行儀。と度世のよもよ。くもよ。即
ち。王邑寺舎。と建立。で。料庄。供料等を
り。あく。佛事。とたより。福業。と得人。とよ
き。般とたより。これ資縁。とりて。我身。と。高弟
佛法。と。行。施主。あく。而れ法。とほゆうく。
然則滅罪。よもや。檀那の福業。と行う。と
志。と。自他の利益。あく。——たゞ利養。と
思ひ。くそ。の福業。と。かく。どと。よも。が。代さ
室に。つやうて。供料。との。り。ひ。と。当時。ハ。得食
仰うう。と。施主の福。と。う。なし。紙信。施浦。と
て。當來。よく。と。う。の。不。——實。よ
ハ。後。う。ね。事。の。歯。こ。せ。ね。う。グ。ト。ト。又。觀音。品
ト。高人。多。衰。と。く。く。險路。と。く。づ。け。す。怨賊。す
あ。高主。餘の。り。き。人。と。き。と。て。一心。す。報事。と。念。せ

りく賊^{ハ難}とまゐらしよりも世間の利益を
文の^ハ。觀心の根とつう。一切不生滅心中に仏
性の寔^{トナリ}。仰^ハヘ第^ハ識心五^ハ萬物^ハ。心^ハ
心^ハハ^ハ人^ハ。六塵^ハ賊^ハ。六根^ハ
六境^ハ著^ハ。自性の寔^{トナリ}。眼^ハ身^ハ
目^ハ。意法^ハ著^ハ。眼^ハ身^ハ。意の自性の寔^{トナリ}。徳^ハ至意^ハ
法^ハ成^ハ。外^ハ法^ト心^ト一心^ト。眼^色と^ト
心^の外^ハ法^ト心^ト一心^ト。眼^色と^ト
心^の外^ハ此^トろ^ト無^ト。無^トの意^ハ。執事^ハ
思^ハ止^ハ。富^ハ解脫^ト。眼^色と^ト六塵^ハ
老^ハ。流^ト。怨^ハ。賊^ハ。義^ハ。無^ト。
老子^ハ。合^ハ抱^ハ。生^ハ於^ハ毫^末。九^層。
八^起。於^ハ累^上。大^古。德^ハ。毫^釐。繫念^ト。三^途。業^ハ
因^ハ。故^爾。不^ト。萬^劫。の。四^禪。鑑^ハ。經^ト。
當^ハ。處^ハ。出生^ハ。當^ハ。業^輪。轉^ト。汝^ハ。一^念。妄^心。妄^窮
の。生死^ハ。の。根^ハ。なり。此^ハ。佛^性。と^ト。賊^也。
又^ハ。藏^ト。心^ト。六^塵。汝^ハ。空^ト。佛^性。靈^光。空^ト
一^精。明^ト。汝^ハ。眼^ト。耳^ト。見^ト。聞^ト。鼻^ト。舌^ト。知^ト。
此^見。聞^矣。六^塵。著^ハ。と^ト。現^ト

量々分別なり。こそと本分の靈を自己に實藏也。
六境と稱。執事も亦然とす。たゞやつての事
ノリシハモハアリトモ。不知不用。こゝもも
うなづく。まことに道人きこへしもとよき
まく。六境と云ふ事も。自性のたゞまく。う
る。外にも六塵と云ふ。たゞもとく。う
る。無盡の莊嚴恒流の萬德と幻象の塵境
も。うづゆく。彼つがなり。歯と云ふ。俗
の心にうつり。今生一期れ身の。がり。うの歯
と云ふ。歯は。當來多劫の。身と
なれ。終く此心と因ひ。うつく。自己に實藏
を乞。うる。未來の法財と云ふ。し能う。所持縁り
書玉の。うつく。かく。

波石集卷第七 下

目録

姫招の心なれ人れ事

愛執ようて蛇と成事

縊女蛇欲よ合事

蛇人の妻と犯事

蛇と害一頓死とあれ事

姫招の心なれ人と換トじく事

人と殺害一酬事

僻事一も即じく事

前業酬事

第三回
集卷第七ト
嫁姑の心ならぬ人の事

武殿上人田舎へうりてお世話をわ與へて
のやうにさうが使とすれども人と具へてよう
ゆゑひつてそおばりきんじくめゆる
なり。それを後と女房のひと情なくしてま
うり。女房とてとうもろこしありて
殿のとを貰へてよせ爲ふなれり。さまうり
やよそ。あくと下かれて、だづくとおどり
アラウカム。うち川あづくく用意
て。私身をもとで移しむ。彼女此事をぞんざく

かくにゆきまく。敵よりりの御前の方
まひ。きりさなはるゆく。まつまつ

ゆる。且の事は様とましゆゑ。まつまつ
お滞居のあはれゆゑ。ゆゑ。いわす
まつまつ。たゞ御前とよびますゆゑ。
じくと此身の別れ不よまひく。ゆゑ。ゆゑ
まんはもううきゆうさん。うで。一日といそ
くしてゆうづまもびた。

誓狀もびた

てゆく。ゆくもゆくかどて。うづき方のなまのま
まにゆく。ゆくもゆくもゆくゆくゆくゆくゆく

ゆく。ゆくもゆくもゆくもゆくもゆくもゆく
もゆく。遠江の國ゆくまで人ぬ。ゆくもゆく
もゆく。

て。もとで。馬のりうて。おりうと人の妻のうつ
時。家の中れれ心に。ゆきやうなひもゆく
なまく。何物も。うう。ゆく夫。りう時。廟。りう
のみ。れれんと。しらすくゆくゆくゆくゆくゆく
ゆくゆく。うう。ゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆく
ゆくゆく。うう。ゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆく

海と。之せの事とひがづ。只心にて
うちべ。常陸國りう所の地。京の若人教道人
かよ。教道人房とかひくや。今
わのそりうが鎌倉へとうりて後年月々す
きじのきうものだりうるや。衣小袖など。え
色よそのてとくもたらまうを。がくさる
事ハなくて

つむじゆる神の朽(うら)てねばあら。とあふつまん
こととて。あらとくらなれて。何うやれ。
うに侍奉(しめい)じゆよそ。うび下して死のう
國に或人(みこ)れか房。鎌倉の官(くわん)か
道よ心にてや。まや房(まやぶ)くら。心(こころ)やす
ううへ。車(くるま)とおどり。鎌倉へとくら。も
し思ひく。げ若(わか)のゆりれくも。四(よん)かの事と
首(くび)とくも。だくどはとうらたてもうく
われと。ト。いつほく

梅(うめ)かどへのうど。梅(うめ)の花(はな)うどまや。とく。うれ
まと感(かん)ド。とく。あ事(こと)思(おも)ひ。とまもゆす。う
人のゆうや。うくつうを。當時(とき)あう人(ひと)
わの(わの)人(ひと)。まくりうが。あひうりけも。じ色(いろ)代(だい)
うを。あも枝(えだ)うぐぬうを。やつを。波(なみ)

おもひて坐りかくそ詠り
あむかねまどひやどすばと氣ゆき詠り
あまうにらひよつてくそてをじてや
りく花ひまくわなうにうすむすては
心とやうくふとく。風とたうくね。西船づ江と
模母の鏡と壇よとひと。さがかりよりつ
まの船も。江水朝のうつと月とくとを
し。我くらみかくら一 填母え。鏡母の
り。かくらみのい。鏡とくひも。光のいため
わ。だ。さがくらでうれなかま。鏡のまくらに
我心のうれり。わくらめ
がくらみのいと生めんとまくらがくらよ。人を
かくらみのいと生せれ我うがくとまくら
かくらセ。まくらを世の我うめう。それ
じとくしゆかく。我力れまくと生れ
葉因縁心うめを思ひて。うり恨じくば。せち
れなうへ。多くハ娘娘の心ゆくして。うりう
うう娘一 ううひくとくめううう
えと後ト因といひ。透くとく
あむつゆて。よくまくまくまくまくまくまく
詠

かし。或ハ蠶アシとなり。或ハ蛇ヘビとなり。或モよ
リナリ。人を殺すものじつに人の力。そりあ
河とどまがづく。現生するは慈愛の徳とやどう
善まゝの毒蛇ミヤの苦とまぬうべ。わろん。がる
婦メイをよみにとまがづく。又婦メイをじくらひす
タリ。今で書と一石居スル。ひとをゆくとく。が
の書あおりりて。秋の夜鹿カミの時クニ。ゆきとく夫
安堵アムトよし。がれ書につひけき。宿スル。

秋の鹿カミをぞく。今よ夢アメされ。今よ夢アメされ。故アマづり
ゆづひけき。もううかく。今よ夢アメされ。故アマづり
えくうわひより。候マサニれはゆく。まきか

くわわ

只候マサニ

さ

くわ

ぬめやく。えゆく。ハ。と。う。し。を。あ。く。き。る。や。
修業ルの圓カニよ。あ。か。人。れ。つ。ア。リ。れ。ど。も。ま。だ。と。と。お
き。よ。う。一。夫。や。く。天。升。の。と。と。う。く。ひ。り。く。
例。い。ま。む。な。と。と。あ。て。抱。く。う。一。た。く。ま。く。く。と。
天。升。く。く。く。く。う。か。せ。よ。あ。や。ま。り。て。あ。ね。脇。う。ら。接
し。入。け。き。バ。脇。行。と。こ。毛。と。く。く。く。脅。病。一。
う。り。毛。う。いた。と。り。く。く。く。せ。ま。脇。た。ひ。よ。か。ぐ
う。り。毛。う。いた。と。り。く。く。く。せ。ま。脇。た。ひ。よ。か。ぐ
物。日。の。圓。梨。と。つ。よ。傍。が。よ。び。て。と。と。う。り。あ。の。時
夫。化。り。の。傳。と。思。ひ。く。う。ら。う。り。く。わ。う。所。一。

おのとくにうるある。あくべきぬかうて。西志
かくの原りよとちのくどりくれとしりて。
かくせりひりよ

あやしくも西ノ物目れづうわ

弓圓梨うさぎあり(と)

天文博ちいだよと後

まくじびくさく。まきすかんとて
ゆきり

わが人内書。函作と。神うちりつ。夫にわな。

ゆ

ゆ

ゆ

ゆ

ゆ

ゆ

ゆ

ゆ

ゆ

ゆ

ゆ

ゆ

ゆ

ゆ

ゆ

ゆ

ゆ

ゆ

ゆ

ゆ

ゆ

ゆ

ゆ

ゆ

ゆ

ゆ

ゆ

ゆ

ゆ

ゆ

ゆ

ゆ

ゆ

ゆ

ゆ

ゆ

ゆ

ゆ

ゆ

ゆ

ゆ

ゆ

ゆ

ゆ

ゆ

ゆ

うきようりて。池田凡庸すてあそびりうつ。えとま
のため高へゆくんととれど。解のゆうさだ。地頭代
知者ありりき。ばいぐをまかせざるんゆうやくとく半
小。うきよもあくととづくんとく。からむくろ不す。
とり粉とわたりてぐり。また高へゆくまきてもり
玉ゆありく。づみく也房よりくまきてもり
たる。極をうびてあそびゆてうよ。人ア考
うる相うて。じづくくまく。あらくとが重
づく。まくとくゆどりくく。あらくとが重
りきじ。冠志原よもやそ。あれとくわうべと
り。うきよもくねがつてうしんとく。どうとこ
きりてあれて。かくとく。まくとく。じうり。祇す
里ともは。海とくまとく。毛ハナがな紀元。
まくとく。めくとくとく。海金のりうふる。
ゆき事也。かきき揚経也。わが男。代りの時。まく
とくとく。事あと。まくつづくんとく。これうふる。
牛とくとく。とく。とく。まも男れあうて。く
れすうんのりと。とく。とく。とく。とく。とく。と
く。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。

牛とてうそをうり。こそ支拂ひて尼山。ニモ一ばーを。
まわらとて所あるよーを。我けう牛ふ。セテ
なあふ。老ハたてう牛なりとあらりのまもん。い
きやう経へ。あやう牛ハ。一生ふやうしやひひき。
さあくとんとゆーは。男の心もらまく。がりや
うなうかくひる。おこゆきかくもわまとども。
怪量れあまきくハ。づまのまくや。地田に女人今。
車のがたによびりけよ。或山乃中よ。山外と巫女
とゆきわゆくね經トうる。人々をなまき山中よ
て。凡夫のまじひあまた。や歎のふむうして。この
うれとどりぬ。此乃に山火ノ如く。うらうら

三十八所。行もろほめにらを移すてひつます。
山外又こうりとぞ。教説とくとくとて。魔男のねぢ
よ。うふゑぬよあひく。不景とけうまうり。あ
あま無魔津休大聖不動の里。今まそてあまと
制せ。ま物狂とてひく。二人のまきと候よう。毛
も男子の毛執れ。ひくひくひなく。一
變執ようとく蛇とぬ
燐倉よあら人れじと。あ言の傍傍れ鬼と悪
て。病めなぐる母よ。うつげうせりまど。み
呪が文母じあく人ナリリ。まくに。此ノア合

て。聞く兎とまつり毛。心が一もなづき
れや。まづかりゆくや。だよ。にゆる思ひ死り
ちや。又母よりゆく彼舟と音をもへとくらん
う。おはのくとくそそり。其後此兎又病付て。
お事よりぬく。抱うりなりけりを。一間りう
ゑて。とくとくとくとく。と抱えうれせ。うく
あやう。又母よりむかうりからうて。大なる船と
ひひく。おとひりうかうて。そぞほあうをに
りきとへ船して。あ言れ西の山とく尋ねみふ。
船の中よ大なる船あるとく。兎ともとつまう。
やぐて抱えうれ草すへてりう。お父母。じどうが舟と
よきえをうけうて。おもて。漁翁のう音へ運びん
うて。たりうよ。舟とくかく小蛇よぬくうもゆう。
又母。わう傳承者。養へて。うべく。うへばまくア
御行ううそ。だくにまえ。運う行うき。うへ
あへや。おもくあ活うう。うへも。うへも。うへ
て。ううう。ばげお徳も。多く。萬世の事と記と
経ゆ。其不其名とつうりく。ア。うへ。おも
のゆ。はうう。ど。うそ。一切の美称を。一心も愛
おもひづれ。うへく。驚く。うへばとつて。此
事からうて。不思議なれど。まあやうて。お歌のう。

らひのく。つて花々へと見てゆき。まわる
狹葉を含みにむづづこまつた。ま見る
久く。流れる風もぐる。只此空寂の不致なり。
聲海よのく。生氣よ流れる事。音波よは。
仏祚よ行窓。聖教の對治よまが能く。
此を心とし。此情欲と爲めよ。ま寔よ解脱の
よへり。生津の體とくべ。毛根つまよ。
秋網とおど。三宿の繩也。ぬ生の流れる事と
がうれづよの圓とや。ある所云々と放まよ。か
わく。我身のあれ家よ居く。じとよかうてゆく
が名へ。むはりとれとづくして。あつり

懺悔して念佛と。うつまく。うれづく
アヤシム

法女蛇被り叙事

ト絶の圓よ。あら者代書。十二三じうきなう縫しと
ぎと。おなづら泥の川くりたりて。け泥の室
よ。これじよもとまく。也。じふくまく
せんと。うづくひづく。もう世あるときまく。
風吹。空くすれ。又風のやうよひづく。じよめ
風よふや。うくく身の毛よど。泥の水よ
うち。風あくして。うりきよ。づきよ。一渦よ。

物の起居地へりきど。やくちもうなんと
つと計り。そぞえよそりつみて。がふすうん
もつゝ。日ひれ事まきて。う程め。母も肉も
より入ぬ。其後たゞう蛇もきて。びとあり音と
うして。此じととみう。又ト節あれ。ましく
くさのとく。だよじうく。ばじとめい祇じとめ
り。母ハ健母ナリ。秋ゆくなかて。はいとくと
絶べき。母ぐとくにうづべくば。書。美よそく。
ぬあすなれ。母とぞゆくまくひうづくとゆ
内。蛇じとくとせらそく。母ぐとくいゆく。お
うき又これじとめとくの具。一とくりぬ。にきう蛇
ゆきうひうきて。相ううづく底とまくと。まくの
文承年中。夏の比の事。とゆ法。一。三月三日
大氣太風。すまえあきだん時。かる。こア。うい
一。寶。彼日行ひ。一。く河をて。風面つを
くゆり。ゆく。かりつ事。ハミテ。うづく。
人のうちもくろきを。底で。狹窄。よめい。竹
よ。人とあやゆうて。ハシ。と。がれうん事と
うそくづく。自果。のとつうたよ。く
蛇の人の書。花事
中。じを。は。國のあが山里に。町政。下す。俗を
う。う。う。まのうり。う。う。う。代行。の。う。う。

書ひりてスル事もあつて、史傳にて
入てみると。スカスカラリナリ蛇もあつて。は
ナリ外ナリ。柱とよりてぢくありてアリ
ハ。歎。宿世の歎とひつて。お細よがよご
殺害とばさうとども。今度アリハアリ。ア
ラヒア後アリヒアマシテ。命とろアリト
アリ。体かくと一キリヤー。山の頂へとく
ヒ。其はスカスカラム。家ノ肉の男女たとくさ
く。何アリと向。アリ。蛇のむびたぐ。アリ
アリ。ぬとアリ。アリドナリ。さそく。アリ
アリ。出居する。アリ。ニスヘ蛇頭と
て。弓をかく。弓房とくみく。箭丸を手も事な
アリ。ぬさう。筋蛇つゝこそ。づくすあとつ。數
あらじ。そよへ。一又二三スヘアリ。筋蛇。筋蛇。アリ
六。アリ。アリ。筋蛇。十。アリ。具。アリ。ある。アリ。頭
と。アリ。古。アリ。アリ。も。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。
アリ。アリ。筋蛇。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。
思ひて。アリ。アリ。筋蛇。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。
筋蛇。アリ。アリ。筋蛇。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。
眼。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。
アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。
命と。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。

かか事何と。命とあへてえ。ねよえど
セ鳥やへてとくもくと仰りまばとくとく
うきゆひそ。そよびうがむす事とづ一思ひくと
つをうう。人畜異なりとつとも相の道理ひま
うりゆづれ書といふうきゆうきう角くとく
かあひきうり何とく命とたどりかう。教訓う
事は國く。よこしの後ざくもせん事アズ。無
悔の次才子を仰も此事寔衆三寶を知れんと
也。天祐地祇梵王帝釋四大天王日月星宿も
照徳んあア。一事も虚誕なこと事うう
りくくくくくく。人よじんくく。
うりとも大蛇うるまく。うりて頭とて腹よさのと
大蛇のとく小あく。一日の件の大蛇せぢりと
てくくかせぢり。あ尾とく河ゆう蛇一尺
くそく。がくくとかく。うて山川もくあれく
く後。とくくみまきうりうりうり。うり
道程とよのて。うきよとのど。うりうりうり
うくまゆき。道程とよのとく。うくゆ方
ぐく。うくゆく。うくゆく。うくゆく。
うくゆく。うくゆく。うくゆく。うくゆく。
うくゆく。うくゆく。うくゆく。うくゆく。
うくゆく。うくゆく。うくゆく。うくゆく。
うくゆく。うくゆく。うくゆく。うくゆく。

しむごのれを

死と害一頓死もか事

下壁の間あはるの踏ひまつり。大なりあれ
れとある。お蛇のへりとへりあつたとある。
う信何とこうぞ。あくさきのうすとて、まことわらか
一とびとつと本よりりて、うちとくゆく
程にちきやう源のけりとせりうりとせんを
れよ。もれよにむりのまかくは大蛇の一まづ
りなあがくびゆ矢たらて水よどむにとく
ある。よしらしく射殺。さとあくゆりも
てとせく身もねの桂くの事。どうひくは
死ふ死よう。栓たりと事リして。今生もよ
りうげ。本生も若果。どううめ。ばくか
社とやの外とて、りんぢうりりうき。やゆ
不凡名とわゆきゆり。同圓す宿主。宿の下凡
のゆく。魚多くおいくせりふねと玉くと
りう男くく毛と入てみとじらのとき。瓶子
れ中くり魚お。不思候れ思ひとなく。かくと
瓶子の中くりお蛇の。一尺づりなう一つもあ
る。どうりてうつりて。道の傍よたてくま
うりて。魚えもうりけます。うつゆくま
う蛇あれつ。やうてサ殺と。殺せとえ事あく。お
み殺されとあつてもとがく。重てあはい。くま云
ねともうと。とてハあけよだら。壁池かやとす。

在ぞやまく。しらす。縫なき事へり。とを
と角。とを細く。傷れむ事。射じて事あ
なまく。とゆく。因果と信せざる。とろ過。
歎業と造り。業と感と教よ。三行。一
現報とつよ。在ぞけ生に感と。とく。報の
じよ。とく。うて。三行。生報と。とく。現
れ生も感と。とく。うて。三行。後報と云へ。
三生四生の量。五量の生と縫て。もく。逃
て。づる。と其じえひとく。ばもう。とく。業
なし。んども。やうそと生も感と。うそも。くも
あひれ。在ぞてと生も感と。代の盡ゆ。そ
ちあひる。とく。乍く。

娘姫のゆふ人と接一酬事

浴湯。おう師相のゆひゆひり。ゆふ人のゆだ
ゆ。歎のゆと。車と廻り。じひゆ。ゆふ。
一弓。ゆう。ゆれ。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。
大と入て。娘姫。一弓。腰と。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。
もく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。
つに。息づり。かひり。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。
つ。ゆく。車。より。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。
ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。

なぞやもうとひり。縁する事へらはれ
と角へとおへ。傷れ身が事。射じく事を
たるといふ。因果と信せざる。名とろれ。
熟業と造り果と感とれよ。にて樹を。一
現報とつゝ。生じては生に感じ。まきれ
じ。つくりてまこと。二。出生報とつゝ。生
れ生れ感じ。づくにまこと。三。後報と云へ。
三生四生の量。五量の生と経てもう。比
てづる。其じひとく。わもうり。より。業
なり。ども。やうと生れ感じ。うきもく。そ
し。うきり。人の思ひもかげん。

あはれの。生れてと生れ感じ。代々の靈ゆも
うかなる。とくらゆ。く

媛姫のゆふ人と接。酬奉

湯湯。わつ師相のゆひひり。ふのすせ
移す。殿の侍と車と廻り。じひゆもく。
一弓すうて。射ひ。射て。身房を。使せて。のよ
大と入て。懷姫。うら腰と。りきよ。よき
もくれよ。もくし。うら。もれて。くらう。よ
づくに息づり。かひり。母なり。くらう。よ
りの車。どうつ。されう。もそり。よき。やぞ
息絶。う。母是と。ふか。心。あく。きぬま。

やうそくつりあく。からくれ社よまつて。まき
まきありびだくまと。うりあ。我よまくまくと。べ
うをひりり。らまうれ思ひよ。産うて思ひ死み死
まう。まの靈よてづかとたく。彼小の方病れ
まえ。身よもれ苦痛一てうをほひ。代
そひ靈猿ぬこもうも絶つば。ふう。き人のけ事
しや。うきのむすと。まきあれど。ま
すゆ。身なき。中くまのうが何う。う
じい。だぐへ。因果の道理と。うんあ
たり。人のうと。うと。うはあ。まば
人と後どうとも。代と後どうとも。自

代のふみ。も憲の念。無くまがひ。

人と殺害一ひく事

洛陽よわう。武士れ郎。のど人の手縛と。うと
うとうと。柱もあづり付て。うと。うと。うと。う
と。うと。うと。只一度ようびと。うと。うと。うと。う
と。三日が間よ。自由と。あづり。ねつけ男くら
行く。うと。うと。うと。うと。うと。うと。うと。うと。
なり。うと。うと。うと。うと。うと。うと。うと。うと。
くと。うと。うと。うと。うと。うと。うと。うと。うと。

おひとをやつまうゆりゆくつひと死り。わ
れ言主の親にあまとう中法なりけども。ゆ
がへづきりひれ然ども。うめほりとねや
ひみだ。殺害ちがいにて。此事ことゆゑ。やそ
逃出だしう。後あとて尾州びしゅうよりのり病
伏ふく。一仰いつく遍身へんじんとれのよしとひそわく
とくとくもむく。もむくにあやしてゐる。
恩業おんぎょうはかまはざきのりよまばうろせも。ね
らばと秋あきと殺ころさむじうひあり。向むかい
人の作活さくわとくとく。人を殺ころのとくとく
かわらかわら。かわらかわら。かわらかわら。

言葉ことばのうへあひと。山野さんやの歸き。江海えいがいのうへ
くち心こころよぬれと。食くも。れは六道ろくどうの物もの
ゆゑ。莫ま、魔王まおう男おとこ。そく。俱生きじゆう。神かみの薄うす淨きよは集
の後のちよりもりて。どうりて地獄じごく愚畜ぐくのむすび
くすび。ばくづきととくべ。只今訴うそ人
のなまこまくに殺生ころうとがそまくよ。そくとく
なまこ。經きみつくる。人生じみやうとく。二つの神
うちもれ肩かたよ。一とく同生どうじやう。一とく同死どうじ
といふ。人神じんかみとみど。神かみは人ひととく。もうよ。切きつて
吾われを記きと。まこと俱生きじゆう神かみといふ。まこと
上うへに人のうびあると。人頭燈じんづの。檀茶燈だんぢゃのを云い。

卷之二
一
元は嘗ての事と云て。闇玉の奉もう冥流也。
津波梨のかみよ。才八歳れ現ぜう相とく
里内より移く。墨累根取と含義。外より三
葉の若葉の新綠塵りりもくきたり。いそ
かすれゆく。ぬざくや
禮の中。既てえく地獄め。て殺生のじひ
りく。わしひはとぞう修肉とく。扇とたぐれ
骨とく。或いやつる身あふ。き。うへよ
葬ゆく時。放とらげくまく。ま時獄卒がおはり
恩給済セ。問ハ放とらげくまく。ひまひ
て。ノの果と受命時。かんぞりろこどびしては
じや假内も。う。う。今も怪之。今うかし
る。と。の附も。解じて。因果。う。もたが
う。事。射のうちふも。う。ひ響。声。ア。意
もうに仰。りと。う。な。心。ア。ん。人。ア。し
が。く。殺生と。う。と。射。安。死。ア。う。う。う。
齒。事。と。射。射。不。う。生。射。身。と。だ。と。う。ん。う。と。安
生。れ。う。う。と。お。う。き。う。う。恩。癪。の。う。う。う。う。
み。生死と。あ。津。去。に。ひ。ま。れ。じ。殺。害。發
同體の含藏也。な。や。ま。殺。と。事。ア。う。う。う。ま。如。平

爲へる。そぞ思ひて。佛勸應勤なり。たまうべ
忽緒ハシメよせん。佛より教はん在あお家アリ。そぞ
彼教誠ハシメよし。くんづくじ下シタ

僻事ヒツジも即じく事

或俗士の下人トメヒト。或人オトメれ下人トメヒト。素ソシりき
るばかりらうと。ゆく回りりつまくに。圓鏡カクイニ
ひて。壁中ヤマツチにて。床階ヤマハシより引ハサひ
て。繩ヨリとく。さきへりりかと。之を挂スルけ。後アフタり。拂
動ハラフすと。ひきよと。事モノ也モ。ひき事
トモノ也モ。身カラはらやすらぎなし。わととつと。座シテる。金輪キンル
三十遍サンゼン。アリ。時ハいと。ゲゲをく切カツね。やの
もあひて。あるうとくゆう。此男アヒト。うらやま
て。終入アヒタ。そりうか。づき。めぐらて。顎アヒタと。こぐま。ば
り。うきと。さくさく。だまき。そと。あの事モノ。

繩ヨリとく。やがて。もく。こゆ。アリ。なま。併アヒタ
る。ゆ。アヒタ。承アヒタ。中ハシメ。二ニ人ヒトの。座シテ。が。く。う。て。向
よ。が。よ。の。ひと。別アヒタ。の。ゆ。あ。つ。ま。し。併アヒタ。の。男ヒトを
坐シテ。の。野アヒタ。中ハシメ。て。切カツ。と。一イチ。そ。二ニ。人ヒト。て。度アヒタ
す。ま。く。の。野アヒタ。中ハシメ。て。切カツ。と。そ。二ニ。人ヒト。て。度アヒタ
す。ま。く。の。野アヒタ。中ハシメ。て。切カツ。と。そ。二ニ。人ヒト。て。度アヒタ
す。ま。く。の。野アヒタ。中ハシメ。て。切カツ。と。そ。二ニ。人ヒト。て。度アヒタ

す。ま。く。の。野アヒタ。中ハシメ。て。切カツ。と。そ。二ニ。人ヒト。て。度アヒタ

年中少ひとての事。武芸中は一人去
る二月十八日申の時よ。どうなつこ者のへいびとゆで。
うきしきうくもつまうきうりやりつ思ひのじくひよ。
次八年。同月。同日。同時にまうれりおとてそや
けも。毛羅の事ハアよどみ。じくよるをき道
程とくゆく信とべ。座りそしりゆとづめ。
うがなうりおとてあんと廻る。あせれ罪と
も懲悔とべ。今更又送車かくと。或修りが
法師ニ人向ふよひひととく大方御るをりうが
道。往つまわひくとて飛り一りうが。或
里かう角りぬ。二人の法師、おひくと。おひくとあ
はるかうとくのうとく。併附おうまうく。お金
し。うきを修むて。お茶トセ。度にうひうどり
り。はー人の法師。は事と譽とをもとときて
たり。不思議な事なうと思ひて。ば法師ヲ縁入
る。お隣とうとうて。ゆよへて。お詫びして。ば法
師の毛よ羽もとまくぬなうと。おひう
て。づきつて。うひぬし法師日もうとみまへ。人の
法師さ。おとく丈度お邊へて。どうてうき
て。せうううきう。あく人とね連せん。

く。我身と云づらぬ周囲の道程たゞうだ。ば古人
の多く人と云つてゐるのをうぢと想ひ人と
わざとてはとのもがちん事とれりとふる。り
ゆとりうる人とうしんうてはとのもがう
きん事と思へべううかよ。

前業じくす事

武山寺の傍傍土たま。みづれと生ひば。じたみの
ひすれ中年。一つとゆくとえ乳とのまやせどく。
ひくとひゆきを。坊中の人に此母をうし。あくまを
ねねひ。坊主も高麗もあらまく。一乗の中
まつよかりう。おおたゝけり。我力はまじの生
よこむ。とし。宿女つてゆり。又人のみまと
ゆれゆり。が。空人の事によきて。情もく
旅舞。——。心ざすもたがふやわさく。ば。一人
ハ西よりきく。で。我とよく。うひ事のと
里。——。ゆく。思ひみだる。今此みの子
ひ。彼ふ人ひませ。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。
とひ。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。
ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。
乳とのひとよびく。おとまよみゆまく。ひ。ひ
く。く。く。ま。ゆ。ゆ。ゆ。ど。ど。ど。ど。ど。ど。ど。ど。ど。ど。
うすにまよひ。ほ。すく。う。ま。が。ま。か。か。か。

これとぞもあくゆう。かくもア角、け
もとと。御まもノは周羅トアリミシカ
リウミ。ノハ内不審モホリテ。か
リモアリ。櫻の郷。かくは事報もくさ
里くと。またがうじ。おやくに
信あり。これ大のよどか。うりけども。少き
もと一りあう。あそびり。すよ。度セテ。まく
金。これ太ハリナラゲ。すよ。めまく。不
で行く。まく。ぬえ。かく。まく。不ふら。ば時
金。御く。事。と。思ひ。金。され
とり。の。金。と。やや。回。じ。まか。まく。金
と。まく。う。角。又。と。まく。う。角。
也。と。回。も。俗。又。が。多。金。す。ゆ。と。俗。又
て。まく。う。の。り。まく。う。まく。し。ゆ。も。
たれ。ひ。と。まく。まく。まく。よ。た。ぐ。まく
り。た。ば。俗。に。まく。と。マ。リ。時。ま。て。ハ。あ。れ
ち。う。こ。と。と。ゆ。う。の。う。え。俗。又。取。と。と。ぐ
り。と。一。悪。と。ひ。う。ひ。まく。金。べ。と。そ。見。ま
う。金。の。を。行。く。まく。まく。ひ。つ。甚。い。ト。ア。と
て。づ。う。え。さ。う。な。に。事。と。まく。金。山。彼
山。も。金。まく。う。み。あ。付。と。わ。ア。と。ま。金。業

れじくひ。そぞうそ驚くにわく。ゆうく
やうの事とすまは。よく因果れどつもううが
ひう。さきどひのひう事とすま。只一世の事
とすま。かうして。ふゆもんとひとと人ひと
とゆべく。只じへれ葉因縁とあり。す
し。かねて思ひゆくも。たゞ妄念たゞ。さ
ちやうなづて。舊業を消。おもいき罪と
ゆくじて。行ひ人へりて。づくしりともなく。
夫一更あうて。うてうとすま。主がまよ内行
難だれたり。今未だナハ。もじ。うかとひつま
経き去ぬ。まかうとつてかう。不思議とす
はくくをなぐ。まつても後。からまかくを
なぐ。うらをこれ御くべき周囲なり。人とのと
金うら。じーれねくらもと。傍人の親子三人
ありりう。毎日水魚三匹をまきう。足母思ひ
き。あたうくじ。二ノ一で三匹の魚うひを飼
ふと過生じ。其後ハ二匹をへきり。生アシ
まわる。漢土よ法をとつて人親切の縁を送
立れ。れらう。けうが。なし。まわうて死。て。圓王
は西へて。主に死と感じて。人をくじて。

寔宿外傳也。けり。猪奈毛野のよひま
奥。一。食れつまもまく。ぬとアメ。行も
を食相がりん。と。ぬと。ん。と。じう。荷葉
もう。食。水わくろ。一。と。ま。鯵生。一。と。う
川のあと食。う。吐く。と。荷葉がり。氣味。う
く。ま。と。だ。こ。と。び。う。う。三。の。あ。と。佛
遊。う。と。う。み。や。う。傳。ハ。文。也。

前半の御殿事

後半。前半と云所は百姓が書。事。今。足。り。る。名
前半。前半と。あり。く。と。く。の。う。地頭。廢。れ。也。御
御。余。名。と。う。か。と。う。か。と。う。か。と。う。事。内
う。じ。い。や。と。う。て。た。と。生。く。せ。く。う
一。せ。思。う。ん。お。と。う。か。と。自。れ。生。く。う。一。前
回。と。う。く。あ。と。う。と。思。ひ。後。え。そ。抱。因。ハ。キ。う
も。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。
小。圓。ト。ウ。と。小。次。の。日。地頭。廢。れ。一。り。う。辦。是
確。否。の。肉。ハ。び。入。ね。ま。と。他。作。一。て。書。づ。う。あ。う
き。う。が。事。ス。ホ。乃。ル。と。う。う。此。事。ト。も。と。思。ひ。會。く。
此。難。ト。う。と。う。全。れ。中。み。く。と。う。と。う。と。う。と。う。
と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。
思。ひ。も。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。
其。來。ゆ。り。ね。書。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。

ミドとうきゆつてみを。まかたうづだ。くす
一升あるまえうきなづれ。おもむきうる氣を
あり。氣をうつてやうみて。ばあも源をなげ
たり。そとをなさとおがして。くじひう鳥
のうきをなり。まうりうさ。けあす又
ておうりも。みをれり。一時も目れかうづ
かうづ。たゞの事れわよ。歌みれりを
うなき。又は燕廻つせ行く思ひて。すとを
きもやそて。おうづつめとひく。福らうろ
し。おうづ。ばあまうりよ心うりけきを。まくく
あとつむせむり。とまめがうづ。まくく
頭。うづうづよ。事れぬゆきく。匪罪の老
ふをうて。傍とめひうて。づまきあきのあう老
なり。そめおまめ。ひて云事あんまゆ
ききうり。とくはどの事あなう。くじひくと
不可思議の事あなう。罪薄れやどくをほひ
角くゆき

怪
怪怪
怪

奥列。百姓をうり。怪貪りて。書ふすよ。あ
けがうりゆき。書ふす。くじひくとだびくと
てぞとむづく。あからこく。六風すれすとひ
て。地頭れりよ。とよ。アケリを。まうそよ

うすりの河よりかたまりあ。懶食よみくね
いよ。志のびくわひもづ。心地もほづ。序
げらふとくうか。あくまくう。御くべくま
らひきんと。地頭まくと。あくまくはなひき。
アラシてまどきうま。いわうみゆをとふ
わうか。おまくしむか。まくしゆ事。まくし
ドリカ。かくまく。一トドアさん。余の
川邊通す。比山川はぬうりて。
たかう鮎と三千づりうりてゆりて。やくい素て
ひまづぬ。めうひ。

をよきひためて。まことに心を回しておひづり
まくさむけるをもの。がふよし。何よりゆく
ころの。我身は行じ事も。トセア絶へ給ひ
す。自懲の懲とすらぞり。我身は
行しきづく懲食れずれ。す。惡の。一
懲食れぬとゆもかすり。萬心を失とす。懲心
を失と歟。地獄は入てから。もとくは經手
ことれり。心の。まことに。身
とたす。樂とす。財とくわき。だがく。身
ねもくひとす。懲食はうり。身
とわくへど。吾根より。へど。三寢の。猶因。又母障
長の。是田貧病乞丐の。懲因みと施す。ば
かく。底よもよも。かく。義は却も。まも。鑑
の罪を。と。正居れたる。もうつ。も。あひを失
ひや。およげ。も。せ。や。じ。も。く。ゆ。く。ま。う
毛。く。い。何。く。せ。ゆ。れ。ど。つ。く。く。ゆ。く。ま。う
ケ。も。う。く。う。く。ハ。見。ば。た。れ。つ。く。く。く。ゆ
ふ。く。ひ。て。一。わ。も。中。き。れ。腰。に。身。と。た。と。く。ゆ
く。續。度。と。行。ど。も。と。承。く。わ。せ。ど。ほ。く。ゆ
事。と。も。く。な。と。な。く。も。う。う。な。と。も。と。く
ま。い。考。養。も。せ。ど。予。思。考。み。れ。中。れ。あ。く。

財寔の故なり。或山中に有德の虧也。才子高達
よりくもり。頗死して。慶也もせうりくらま
ト。もすみた處今後の中あくして同音。
葬毛也。三日水やりがれに。おうと
凡て。うそり葬りて。は葬りきる
者。うそり。しげよ直き事也。うそじ心わ
人。ま寔れ福田の。前て後たくつて。七房金傳の
慧業と假と。となり。世人のかくこととふ
ひをか。たゞ吾事。かつ手やと事とば。ば
ゆく。事と。慳貪の。また。身ひあひ。實
き。候せり。あらん。うそり。うそり。うそり。
か。慳貪なる。虧も。うそり。捨物と。うそり。呉
人。あは小思よ。うそり。もく。毛ひ人の
之を。重ね捨ぞ。て。たゞ一人。うそり。うそり
うそり。此思い。うそり。もとく。うそり。うそり
虧も。化外の。うそり。たまに。うそり。うそり
うそり。豊少。うそり。うそり。うそり。うそり
うそり。うそり。うそり。うそり。うそり。うそり
うそり。うそり。うそり。うそり。うそり。うそり
うそり。うそり。うそり。うそり。うそり。うそり

あくまうに事のまゝぬ。而水瓶と竹やまら
すうりきんそまうぬ時よ。ばうなり侍勤め
せ思ひまうりく。奉つまうてはまくまうで。
人の死も死ゆるをかねや。被さうてぬまう。
一巻とくまうへども。死り。終まうてうび。二三と
たゞまうども。かれまうつば。まうゆか神
もつもく。死うんまう。まうてうじ。まく死な
きまうつとひり。懲貪なまうれ。極
なうも。まうくせたう。水瓶まうか。ま
の心が賢らまうり。学問の巣室と無下まうわし。
盜人ゆ。智者ゆ。相い用。やまう。舍利弗。常ひ

僧人ゆ。智惠とゆ。盜も能むれ也。

沙石集卷第7 下終

神護寺

迎接院

乾元二曆

癸

季春之候此書道證上人奉渡畢

道慧

干時乾元第二之曆癸季春初之六日於洛陽之西

山西空寺又重一部書寫之次此卷奧一枚畫改

文鼎

片山隱士道慧春秋立四

油石集卷第八目録 上

雁鳥鴉者刪れ事

雞の子殺しじく事

鶯ひ是事力あられ事

畜生の靈の事

ある獸事知事

猿と燒因ばうの事

佛の鼻薰事

廻向れ心狹事

愚癡の僧牛はなみ事

不法よりて真言れ罰とぞらつ事

天狗の人の真言と教の分事

沙石集卷第八

弯の特とく者歎事

下総の國小武信一生弯とうよ。或時瘤患大
事事少す。苦痛又神をせび。遂に股と雜食
食事も入らぬ。と。心とてそくさりぬ。先と
らうべくものか。猶うつむきにと。看病
の者とく程よ。あまゆきに術みづりなけ時多き。
股の肉うかうか。力うつこまううつこまう
えりつゝ。さて、極りたるびくらむ。それで
の事あまた二物をども。一もしくりぬ。又下野
毛鷄の食毛つる毛あり。又弯の夏餌に

殺され者うと。癌中より圍逸あらう事むり。ゆ
ひてい用に當り身の毛もぞあつた

雞の子殺し

尾羽よりて女房。子へとせんとて。雞の子
すとわまく殺して。或附着す。女人一人本
て殺すか。とて毛トリとよしりそ。ハツト打
きそく。レバ毛ひき。よひく。うげりう
鷄色。して。うりゆき。とみ。じみ。や
まと。程々く。うやみ。がくの毛。りうが。又。な。や。ミ
りつ附も。うれ。の女。人。と。つ。よ。う。う。び。さ。ま。う。
う。

鶏の子はなんやう事

中比下野の國。阿曾源といふ所に。殺生
と二つ。とて。に。鷄。と。ほ。信。を。り。あ。う。と。死。寄
ね。る。う。り。と。死。よ。死。鳥。の。雄。と。一。つ。り。て。飼。養。不
入。而。ゆ。り。ぬ。其。東。の。事。ア。ホ。モ。ヤ。ア。シ。ム。ア。ン。ト。ヤ
ナ。リ。セ。ア。ス。ア。ム。ア。カ。ア。リ。ト。ア。カ。ア。ス。ア。ム。根。ア。シ。ム。ア
ク。ア。カ。ア。ヒ。ア。カ。ア。リ。ト。ア。カ。ア。ス。ア。ム。根。ア。シ。ム。ア
「そ。ひ。の。と。つ。と。キ。」。今。日。ア。リ。う。り。て
ひ。ま。の。と。云。だ。く。篠。と。れ。モ

日。書。ハ。バ。シ。シ。ウ。地。と。あ。モ。活。風。モ。活。風。ハ。地。

とうらながめ。とうくとううとみまへば。かくも
唯なり。すとくとくきて。まよひやくへ。か
くも。ゆきの雄がせ。うくひわせて。唯ち死
せう有す。是とくく發心かし。おまへて。や
箇世かじの門もんに入り。うかとあんがうり傳つたく。ゆる。
あつたりりつ發心かしの因縁いんえん。漢土はんど。法事はじ。云
うる。鹿しかのうる。中腹なかはらといやう。よ
のうりうる。えとゆくとなげ。まとね。うるを
みて。やそら矢やとれとて。變かわとくうて。徒たと
法苑かぎやの持者ししゃ。よくがうき。まよひ。法苑かぎや
御ごよみ。後心ごの源げん。うりゆき。とく

畜生の靈れいの事

寛元年かんげんねん。中の半はん。や。浴湯よくとう。まうぐるりうて。
坂東さかとうのまきをうぐす。ゆふ。おぬうま。ひを
う馬うまれゆ。こくにまう馬うま。じひく。畜
生じゆじやう。心あうのまう。今度こんど。自公じこうの事こと
あう。海うみとまみて。君きみのゆうすうあう。され
ぞの馬うま。うくも。物ものと別べつよまし。うく。うく
不羈ふき。心こころのひそとひく。金人きんじん。よひうて、
別べつよ。用途ようと。うく。びく。ばく。馬うまかく
うく。わく。うく。用もちり。うく。馬うまかく
ばく。馬うまかく。

處へ居る汝とあじて自分の方を何ぞ不思
議も思ひ難い物と見ておらずかと謂ひ
あはまゆせんと思ふ。とのきの物と云ひ
て。我よりくわねむらもあくどそとは本事に
あつめ。ふくさ座つたるといひ。座りく坐り
きり。さくまとくさくまとくさくとくさく。
子息の抱だきたり。畜生なきよ。抱う
心あつた。さくまとくさくまとくさくとくさく。
抱だきたり。或人の女。などりぬく。慈悲あ
里。義理者があつた。かか。座り水の中。ト
まく。食おとわく。りり。程ほばしも。さく
さく。さく。うううう。蛇身ひりて。男に夢ト
てありて。親よひ。く。夢よひ。とく。とく
とく。とく。蛇身ひりて。とく。又は事と
なげさく。とく。じとく。よじとく。じ
とく。心わづのうく。らう。とく。よく。蛇身の葉輪
とく。とく。形く。とく。とく。ゆく。とく。
其筋身も。筋身も。うく。とく。よく。うかん。とく。
考査よ。とく。とく。とく。とく。とく。
又とく。思ひがく。とく。とく。とく。とく。

一て日うちうてうり。日比原へまひく蟹
ふ。例へれくうやく云りうへとまとのきとあく
まくやなひつま。今へ其日おづかにとむる
トモテをまきしれ不祥あんよあひて蛇ヘビよそ
うりとて。其日我ひづくへ。まくまくゆくじ
うん。子を廻まわすとやうがん事ことをいれ
りきとてさめくことなる。人とねうるんけ
牛うしひづくとて。わとくでぞひきうねきの後
み絶えの日。蛇ヘビとも大おほき小ちいき。家の庭ばりうる
ある。おとねなんとつよもろとす。一。寛にゆく
うてび蛇ヘビとれもくとくとくとくとくとくとくとくとく
ゆなうかとす。おとじくひまく事こと。おとれ
うとく。人をなうりあれを歎かなりて
山陰さんいんの冲う納言のうげんの河尾かおも。海龜かいぎとくしてまよ
きりめりよ。喜びの海うみやよしらておうちうて
きれと龜かめの甲こうかれせとく。おとくのう事ことや。後
うれし。八極はきょくの涉紀せき宣せんも。毛食癪蠻けい蠻けいも。で
毛食けい蠻けいも。八極はきょくの涉紀せき宣せんも。毛食癪蠻けい蠻けいも。で
毛食けい蠻けいも。蟹かにとどつ。魚うおとどうべ。うるまくとくとく
宝鑑ほうかんも皆佛性ぶつじやうあり。是知これぞあり。などう心こころとくとく。
う澤なだれのがりゆ太中おほなかれ。三つさんれかたまく。

蛇とまみる。蛇またねぐる。空びては。まく。
たりうと。すたうと。およひのぐうと。もき
まんとまか。蛇口より白き水とよみく。蟹
毛よさぎりそぞひあらぢらうと。なれでてをせ
らひまく。身よきれ葉とよみく。うりてうらう
き本よれ。グリ。蛇又白き水とよみく。うれ。も。ま
よがつえ。かゆはうと。其財葉とうしと。
そぞひりくひくと。とよみく。蛇とまく。
本とわと。二つあたらうと。とよみく。蛇とまくに
せそとまく。うつと。とよみく。蛇とまくに
かくのよと。頭の方と。とよみく。中と。争
ふと。あぶと。とよみく。尾の方と。とよみく。小蟹れおよみく。
くうじ。我こそ春ムモアラ。と云ひよと。みをり
其村太う。我分の頭の方と。小うのぶよと。尾
の方と。あふよと。とよみく。小うに食うてうり。と
あきぬぐ。畜生と。心ハ只ノ。よううね。と。を別
る。と。彼もくわう。唯死せり。雄。別の事と。たゞ
てある。うれの。子孫。と。今。の。唯。うぐ。の
とく。をく。れ殺。う。雄。乞。と。そ。唯。と。ひ
う。て。う。雄。宿。れ。あ。う。う。今。よ。だ。う。い。と
し。に。か。く。う。人。の。ね。ざ。う。な。り

鳥數點と知事

中には併豆の國の或不の地頭は、うるに男をうり。
将へうつてよ。様と一そりうつても
とふぢうまで家へ、ゆひつめうりう
を。彼母の石み。其懲うる人をもあらうせむ。
ゆにわびうるんあまきまきゆうてゆく
もとつとも。而お冠者も。主の心と知事
かまくくまことうべ。そまくじがうくと
て。まくとしれゆくして山の石くまこまくひまの
事うたりけくよ。夏覆盆子のうりゆうと
猿尾云。わづくくわづくあまくはるよ。と行
ひりひて布の袋よ。まもと入て猿母うせり。
其後繩のうりに。うまれ布の袋よ。繩とて
ゆうよえりうてある。げ度の繩とタてて玉ま
す息とくひて。ば吹きとくらうて。みくらくは
て。もばくよ。猿うりうりと起居とくひ。香
うれい。母子の義あくうりうりした。
誓狀へりき。子息起居うきて。当時までもじ
て。ううとううまぬ。或人ううう。その名遣
うう。うう。人うう。思とあくうん。げ
富貴ふそれもとくも。と代ハ足母とく。師

直と之のやうにあつて、ま澤せられ

らひなれり

理と焼目くの事

洛湯の或在家は修行者の僧やともう。おうちありて、寝るよみのりも。とくと物のうち声を。何のうちもともかくあらう。口ねじてたぬかどろき。さううめりを。もとじて宿僧かとうきて。因みて入てよき。間ちうすく。せんざくとも紙紙す。金泥もそそき。うつ經とうちもして居らう者あらず。何より。向も日本もうう事のほりりて。崩れやくに眼二つもくめりて。只今やぢらよ。ゆめうそ。だらうかじ事よ。あきなす。あ中の者さうさううりて。なまこ野もぐり。いともう。あまの苦患あらん。多劫地獄よ。あまくせ。目なく。愚癡圓鈍の者も。うまきつて。今。さ一旦のけ身のあらん。長劫の苦患よ。あまく。かん事の。あらうとくに。凶代ハ。湯屋ト。ども。湯。女房入。あらうんそ。ひまく。ひまく。後まよま。近佛の。金泥とあらひ。て。佛とをあらうにて。あらうとく。行事故と。

トありがの罪障へとぞ重き

佛の鼻董す

或尼^{シテ}金色の立像の阿彌陀^{アミタ}と多羅^{タラ}は既^{アリ}て
ありて、下る。後く、恭敬供養^{カウヤウ}する。尔^ハを
洛陽^{ラヨウ}より持て行ふ。縁^{エキ}にて序田舎^{シドウ}へり。
はすもと持てまつて、或人のお佛^{ボク}塗^{スル}
まく。花香^{ハナカグ}と供養^{カウヤウ}する。尼云^ニ事^ハ極^{マサニ}
もて、よりかゆ^ム。懶食^{ラクシ}なり。う
まくに香^{ハナ}とく。餘^ハ佛^{ボク}あま^ハむり^ハお^ハづ^ハ法^ハ
持^ハて、^ハと思ひて、^ハ香盤^{カウバン}かゆ^ム。がま^ハ行^ハ
て、^ハとも香^{ハナ}あれりぬ。鼻^{ハナ}あれりぬ。而^ハて、^ハ人^ハ
とあやかに。汝^ハの鼻^{ハナ}。う^ムとわ^ムと^ハる。事^ハ
し。金色^{カラス}も^ハい。ば尼^ニ逝^{カミ}て、女人生^ハ
て、みゆ^ム。アハナ^ハアハナ^ハ。とかのあみハナ^ハ生^ハ
てす。す。彼^ハ尼^ニがよれ^ハろ^ハ。人^ハ
羨^シみ^ハ尼^ニ。國^カ果^ハて、^ハと^ハり^ハま^ハわ^ムん。和^ハ列^ハ
ト^ハ尼^ニを^ハり。地^ジ藏^{ツカニ}の行者^ハそ。矢田^ハの寺^ハ地^ジ藏^{ツカニ}。
うわ^ム信^ハじて、^ハ多く名^ハ号^ハと^ハあ^ハり^ハ。たゞ
矢田^ハ地^ジ藏^{ツカニ}を^ハり。そりよ^ムま^ハの^ハえ^ハま^ハよ^ム。
一^ハや思^ハひ^ム。も^ハ邪^ハよ^ム。地^ジ藏^{ツカニ}の^ハ夷^ハ佛^ハあま^ハ。

アマニ。知足院。福智院。天福院。市ノ地益ナシ。テ
シテノミト莫駿ナシ。成ト。寶號ト。シテ。時。レ
地益ト。シテ。ノ。知足院ノ地益。十福院。市ノ地益。ナシ。
地益。モ。福智院ノ地益。モ。ナシ。市ノ地益。ナシ。
ゲ。セ。経。は。南。血。耶。尼。矢。田。ノ。地。益。大。菩
薩。ト。モ。ナ。リ。レ。心。セ。ナ。リ。それ。ナ。リ。キ。ロ
シ。レ。似。ナ。リ。色。ハ。向。專。修。ノ。餘。ト。有。ゴ。ト。ミ。ト
海。風。情。也。ナ。勝。レ。ナ。意。ハ。一。心。不。礼。の。め。ナ。リ。ク。ナ
ビ。ト。も。餘。行。餘。佛。ト。有。ゴ。ト。ミ。ト。月
夫。の。心。ハ。發。札。ト。モ。ナ。リ。レ。方。後。ア。リ。雜。行。寺。行
體。ハ。う。リ。ミ。富。菴。ト。モ。ヤ。ヤ。持。ヨ。あ。ミ。シ。レ。ル
ア。モ。一。心。加。ノ。カ。ミ。ナ。シ。ナ。ク。或。夕。人。生。家。内
ア。モ。山。寺。ノ。り。つ。變。ト。モ。ナ。モ。出。家。師。法
名。ト。ア。モ。ナ。シ。ん。ト。ツ。モ。法。名。ハ。乞。ト。リ。ア。ナ
ア。モ。佛。ト。ツ。ヒ。神。ト。ツ。ヒ。我。信。ト。ア。ミ。シ。モ。セ。テ
ハ。ナ。ナ。ト。ア。ム。モ。シ。シ。ハ。佛。ナ。ヒ。ハ。の。山。名。の。文
字。ト。ア。ア。モ。ナ。シ。テ。阿。寂。妙。觀。地。自。然。日。羽。山。嶽。妙。
法。觀。妙。地。山。白。山。無。野。羽。黑。日。吉。御。嶽。の。文。字
ト。ア。ア。ア。ナ。ナ。ト。ト。雜。行。の。行。人。の。心。ナ。リ。レ。

も。がまも偏也。信心のあぬ物も。行も名も

一も。もともと一

巡回心狭事

和列の山里小百姓も。草叢とほくつて。供
食の寺跡よ。あるる。恩圓房の上人と傳也。教文
が巡回の約とす。ば。云い放擧も。そひ。りの
も。は。う。く。そ。り。そ。れ。そ。と。そ。と。そ。と。そ。と。
法事。巡り。法事。巡り。法事。巡り。法事。巡り。
法事。巡り。法事。巡り。法事。巡り。法事。巡り。

愚癡の傍牛。すなは事

三河の西山に。宿す。二軒。闇。す。わく。
夜を。う。り。宿す。日。て。山の。風。す。う。月。て。

三河の師ハシマツの行ハシマツて。傍ハシマツの人にハシマツとハシマツとハシマツ。おは師。
棹ハシマツとハシマツとハシマツ。何事ハシマツをハシマツとハシマツすれ
ども物ハシマツのそれどもハシマツうわハシマツりをハシマツれども。
もうくとハシマツのハシマツとハシマツある。じうくとハシマツとハシマツ及ハシマツ。
とハシマツて。又ハシマツ時ハシマツ。ば小法師ハシマツ。ば牛ハシマツのハシマツをハシマツり。よん。
あくとハシマツとハシマツて。馬屋ハシマツをハシマツてハシマツき。其ハシマツ時ハシマツ。
时ハシマツ秋原ハシマツとハシマツ牛ハシマツり。ゆうとハシマツとハシマツき。まきり。し。
毛ハシマツとハシマツ。信施ハシマツのハシマツとハシマツ。よハシマツとハシマツ。そハシマツ。
毛ハシマツとハシマツ。信施ハシマツのハシマツとハシマツ。消滅ハシマツとハシマツ功終ハシマツ。
毛ハシマツとハシマツ。毛ハシマツとハシマツ。補ハシマツせんとハシマツ。よハシマツとハシマツ。
毛ハシマツとハシマツ。毛ハシマツとハシマツ。名字ハシマツとハシマツのハシマツとハシマツ。
吉ハシマツとハシマツ。吉ハシマツとハシマツ。とハシマツ。唯ハシマツとハシマツ。
いとハシマツり。ば牛ハシマツのハシマツ。あハシマツるや。羊ハシマツとハシマツ。水
食ハシマツ物ハシマツとハシマツ。人ハシマツひハシマツのハシマツとハシマツ。水
食ハシマツ物ハシマツとハシマツ。三日三夜ハシマツとハシマツ。而ハシマツて。ゆハシマツ。
一ハシマツのハシマツり。や。毛ハシマツとハシマツ。毛ハシマツとハシマツ。り。ゆハシマツ。
時ハシマツ。牛ハシマツ法師ハシマツ。毛ハシマツ。毛ハシマツとハシマツ。師ハシマツのハシマツ。ゆハシマツ。
つハシマツり。毛ハシマツ。馬ハシマツにハシマツつハシマツとハシマツ。事ハシマツ。つハシマツ。
有ハシマツまくにハシマツり。師ハシマツのハシマツ。毛ハシマツ。毛ハシマツ。
毛ハシマツ羅ハシマツ尼ハシマツ。經ハシマツ。毛ハシマツ。經ハシマツ。毛ハシマツ。
約ハシマツえ毛ハシマツ勝ハシマツ羅ハシマツ尼ハシマツ。緣起ハシマツ。目ハシマツ。

也。佛^{トトロ}波^ハ利^リ三藏^{ミツジヤウ}天^{アメ}生^リ。漢土^{ハシタ}へ^{アガム}。又臺^{タメ}山^{ヤマ}の文殊^{スム}と禮^ルせんとも。山^{ヤマ}に^{アガム}老翁^{アヤシ}一人あ
て。是^{シテ}勝^{ハシドラ}羅尼^{ラニ}經^{ヨウ}や。お^{ハシ}てお^{ハシ}ひ^{ハシ}と^{ハシ}よ。あ^{ハシ}る
も^{ハシ}と^{ハシ}く。も^{ハシ}へ^{ハシ}く。是^{シテ}勝^{ハシドラ}羅尼^{ラニ}經^{ヨウ}を。在^{ハシ}あ
出家^{ハシ}の利益^{ハシ}目^{ハシ}も^{ハシ}度^{ハシ}ゆ^{ハシ}や。先^{ハシ}と^{ハシ}弘通^{ハシ}一^{ハシ}経^{ハシ}
ワ^{ハシ}。文殊^{ハシ}れ^{ハシ}も^{ハシ}り^{ハシ}ま^{ハシ}れ^{ハシ}。不^{ハシ}と^{ハシ}人^{ハシ}と^{ハシ}ゆ^{ハシ}の
う^{ハシ}あ^{ハシ}く。又天^{アメ}生^リへ^{アガム}り^{ハシ}て。わ^{ハシ}き^{ハシ}セ^{ハシ}う^{ハシ}經^{ヨウ}や。此^{ハシ}經^{ヨウ}を。祝^{ハシ}
相^{ハシ}ハ^{ハシ}切^{ハシ}利^{ハシ}天^{アメ}。若^{ハシ}住^{ハシ}と^{ハシ}云^{ハシ}天^{アメ}す^{ハシ}あり^{ハシ}。國^{ハシ}リ^{ハシ}ぞ
くわ^{ハシ}う^{ハシ}人^{ハシ}と^{ハシ}事^{ハシ}め^{ハシ}。宣^{ハシ}う^{ハシ}。書^{ハシ}ま^{ハシ}く^{ハシ}つ^{ハシ}づ^{ハシ}く^{ハシ}。

吾住天^{アメ}。七日^{ハシ}あ^{ハシ}て。い^{ハシ}づら^{ハシ}か^{ハシ}う^{ハシ}り^{ハシ}て。畜生^{ハシ}の身^{ハシ}と^{ハシ}う
あ^{ハシ}り^{ハシ}。有^{ハシ}り^{ハシ}。無^{ハシ}り^{ハシ}。是^{シテ}も^{ハシ}と^{ハシ}て。お^{ハシ}そ^{ハシ}れ^{ハシ}。身^{ハシ}と^{ハシ}も。帝^{ハシ}
釋^{ハシ}み^{ハシ}は^{ハシ}。不^{ハシ}と^{ハシ}。是^{シテ}帝^{ハシ}釋^{ハシ}定^{ハシ}よ^{ハシ}く^{ハシ}刀^{ハシ}を^{ハシ}。是^{シテ}
云^{ハシ}が^{ハシ}。ア^{ハシ}く^{ハシ}。御^{ハシ}て。佛^{トトロ}の^{ハシ}不^{ハシ}に^{ハシ}ま^{ハシ}て^{ハシ}。是^{シテ}
ト^{ハシ}ア^{ハシ}福^{ハシ}の^{ハシ}。是^{シテ}福^{ハシ}消^{ハシ}滅^{ハシ}。是^{シテ}ア^{ハシ}。
さ^{ハシ}う^{ハシ}り^{ハシ}福^{ハシ}。是^{シテ}ア^{ハシ}。是^{シテ}天^{アメ}す^{ハシ}。七日^{ハシ}と^{ハシ}。是^{シテ}
天^{アメ}す^{ハシ}で^{ハシ}あ^{ハシ}れ^{ハシ}。是^{シテ}法^{ハシ}羅^{ハシ}尼^{ハシ}也^{ハシ}。一^{ハシ}匝^{ハシ}
耳^{ハシ}よ^{ハシ}ぬ^{ハシ}。是^{シテ}ア^{ハシ}の^{ハシ}罪障^{ハシ}滅^{ハシ}。是^{シテ}ア^{ハシ}。
ち^{ハシ}く^{ハシ}帝^{ハシ}。國^{ハシ}羅^{ハシ}王^{ハシ}界^{ハシ}と^{ハシ}淨^{ハシ}め^{ハシ}病^{ハシ}との^{ハシ}。是^{シテ}帝^{ハシ}
の^{ハシ}福^{ハシ}と^{ハシ}ま^{ハシ}。毎^{ハシ}二十一匝^{ハシ}を^{ハシ}され^{ハシ}。是^{シテ}ア^{ハシ}の^{ハシ}信施^{ハシ}
の^{ハシ}四^{ハシ}罪^{ハシ}と^{ハシ}て^{ハシ}。是^{シテ}ア^{ハシ}。是^{シテ}ア^{ハシ}の^{ハシ}信施^{ハシ}
と^{ハシ}も^{ハシ}り^{ハシ}。是^{シテ}者^{ハシ}と^{ハシ}。是^{シテ}系^{ハシ}と^{ハシ}う^{ハシ}と^{ハシ}され^{ハシ}。

モ祐寺禪山より是とぞもと。御野山。一月にうな
羅石をあらめど。心わらん人在家出家。是と
ナリ。いぬもべ。病とひがく。考究とのへ福德
あり。極樂よ生じ。何事す。けむ羅尼よりくる
事わらんや。畜類をもてつもえ。七魂又を
もつれ。もろんとて。ばま言とく。
憧憬のうよそく。是風よわく。もちうとある
もく。ねうら。うらかく。人傷ふ。ねつとりつゝ。
毛衣。甚日寺れり。十二三。ぐらうす。人を
童の。素とつもうる。紙。い。せとく。多かと。因
き。男。わら。うそく。うそく。うそく。四スエグリ
なれ蛇。いかり。うそく。うそく。うそく。
とひの。うそく。うそく。うそく。蛇。うそく。うそく
称。うそく。うそく。うそく。うそく。うそく。うそく
うそく。うそく。うそく。うそく。うそく。うそく。うそく
時。うそく。うそく。うそく。うそく。うそく。うそく。うそく
かうそく。うそく。うそく。うそく。うそく。うそく。うそく。うそく
うそく。うそく。うそく。うそく。うそく。うそく。うそく。うそく
うそく。うそく。うそく。うそく。うそく。うそく。うそく。うそく
うそく。うそく。うそく。うそく。うそく。うそく。うそく。うそく
うそく。うそく。うそく。うそく。うそく。うそく。うそく。うそく

とまきてあづくぬよそを。ゆきなりとす
さんからりはりはりのりうどみの
あり。あらねどた。あらうかれい。ま
信ト。あらうて。あらんと。隨求陀羅尼の二字
見にあらうか。がるよあもううる。よもぐり。
地じくよもづく。天よ生だ。如来ハ等流。變化
絆解ひ字。佛の化身也。うやう其徳しあ
り。三井寺の法事。云龍僧正。幼少のうる
うる。法事の人たちりき。福處の仁は思ひあ
て。相人のつもく。持多堂の左右たすれ居す
師。通じ事とさりき。通じ事とさりき。傳
教功徳も。毎日二十一匝。満て。拿とひて。弘法
あるひありて。學問と。興隆と。傳
教と。さうじら。師ろと。うらも。教遍に
きみく。信心ゆと。ありうる。うる。うる。相
人。三年の後又相と。そそく。ばううの事れに
さす。作やん。古奈。七十あまりて。のびて
引取よしらも。そそく。往生やくせう。頬えよ
ええあく。ま。紫雲と。それひき。あらぐやくさん
うで。多忙の人々が。あらうよ。まのわく。うか

まう。尼云和ぞうりゆふ。達保(タマツ)レシヤ。そ
うもとをも信施(シヨウジ)。在あり。壽命(スヨウメイ)
徳(トモト)。毛(ヒゲ)と通(スル)べ。出家(スル)に信施
解(ハラハラ)が。活(ハラハラ)石(シロイシ)てり。も(モ)アリ。角(カク)
音(ヨコ)天(テム)空(スカイ)人(ヒト)あり。信施(シヨウジ)。行(ハラハラ)徳(トモト)
少(シカ)。山(サン)と(タケ)。う(ウ)れ(ス)。又(アリ)く
れ(ス)。う(ウ)ら(ラ)の(ノ)人(ヒト)と(タケ)。ゆ(ユ)き(ス)て(ス)り
か(カ)よ。山(サン)ひ(ヒ)き(ス)。音(ヨコ)と(タケ)。う(ウ)ら(ラ)り
色(カラ)。じ(ジ)佛(ボク)と(タケ)。う(ウ)ら(ラ)。強(ハラハラ)行(ハラハラ)と(タケ)
蜜(ミツ)人の(ヒト)信施(シヨウジ)と(タケ)。う(ウ)ら(ラ)。行(ハラハラ)徳(トモト)
あ(ア)は(ハ)い(イ)。う(ウ)ら(ラ)の(ノ)人(ヒト)。漢(カン)初(チ)
た(タ)人(ヒト)あ(ア)は(ハ)い(イ)。是(シテ)那(ナ)如(シ)。う(ウ)ら(ラ)と(タケ)。行(ハラハラ)業
な(ナ)き(ス)。國(クニ)の(ノ)事(モノ)。菌(キノコ)も(モ)。是(シテ)が(ガ)る(ル)。う(ウ)ら(ラ)
ふ(フ)。又(アリ)く。う(ウ)ら(ラ)の(ノ)人(ヒト)。も(モ)と(タケ)。う(ウ)ら(ラ)
う(ウ)ら(ラ)ひ(ヒ)き(ス)。ゆ(ユ)と(タケ)。う(ウ)ら(ラ)り(リ)。う(ウ)ら(ラ)の(ノ)人(ヒト)。う(ウ)ら(ラ)
う(ウ)ら(ラ)。う(ウ)ら(ラ)と(タケ)。う(ウ)ら(ラ)。う(ウ)ら(ラ)。う(ウ)ら(ラ)。う(ウ)ら(ラ)
業(モノ)。う(ウ)ら(ラ)と(タケ)。う(ウ)ら(ラ)。行(ハラハラ)徳(トモト)。う(ウ)ら(ラ)の(ノ)人(ヒト)
う(ウ)ら(ラ)と(タケ)。う(ウ)ら(ラ)。う(ウ)ら(ラ)。う(ウ)ら(ラ)。う(ウ)ら(ラ)。う(ウ)ら(ラ)。う(ウ)ら(ラ)
う(ウ)ら(ラ)ひ(ヒ)き(ス)。う(ウ)ら(ラ)と(タケ)。う(ウ)ら(ラ)。う(ウ)ら(ラ)。う(ウ)ら(ラ)。う(ウ)ら(ラ)
う(ウ)ら(ラ)と(タケ)。う(ウ)ら(ラ)。う(ウ)ら(ラ)。う(ウ)ら(ラ)。う(ウ)ら(ラ)。う(ウ)ら(ラ)。う(ウ)ら(ラ)

消滅。一。立居の罪障一時も消し去り
不法真言の罰と爲り事

或僧。真言とす。ひ。瀧頂もせざりて。どそ
よもよもと。と師よどて。般若とゆうされく。
おもよもと。と師よどて。般若とゆうされく。
せあむつ。真言のな。ひ。い。い。傳受せざ
法と般若もあ事。越三摩耶。は失やく。
無間の業とぬなり。絶りよば後。此失をもす。
え。單にせぬきんぢと。ちかくへある。
もそよそびらうとひ。單に其位よもづく
絶事。と。うりうて。わく。きみりやじゆ。りくと
えて。畜つま。うつ。あび。く。く。く。く。く。く。
く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。
金下。下。下。下。下。下。下。下。下。下。下。下。下。
待り。下。下。下。下。下。下。下。下。下。下。下。下。
付く。敵愛の經法とす。彼相應物と。彼
本深くよづやく。赤根のき底。わく。
きのあく。よづて。づき。り。く。だ。く。あ。う。同
法。す。の。わ。く。り。み。く。ア。ま。そ。の。佛。法。よ。ま。ま。の
法。ほ。く。出離の。一。事。と。心。ざ。く。べ。て。せ。え。れ
執。素。有。相。れ。あ。よ。わ。く。み。れ。心。に。よ。て。妙。せん
と。お。り。ひ。う。う。や。ね。無。相。も。く。う。う。べ。ゆ。く。ま。せ

タリ。えどは敬愛の法と。も。仏法の真言と。力
らひ。や。見事冥と。う。心と。を。く。敬愛とか
らひ。ゆり。よ。く。ゆ。付て。仏法の。ゆ。く。な
う。ゆ。り。見事冥。法門れ。入。ゆ。る。不
世間の。人。の。思。ひ。あ。く。男女。中。ら。い。思。ひ。あ。く。故
く。り。と。敬。愛。か。ん。と。思。ひ。あ。く。り。ゆ。れ。ま
亥。仏法。れ。敬。愛。の。德。用。つ。も。く。も。わ。う。事。
餘。薰。す。て。ア。そ。ゆ。る。も。と。へ。く。世。間。有。相。も
思。ひ。の。み。う。か。い。事。佛。法。の。が。玄。れ。あ
ざ。う。ま。ま。く。佛。法。よ。う。ま。へ。ん。人。食。
り。ひ。き。り。自。身。度。法。と。り。く。う。

ト。あ。く。う。心。ひ。け。よ。て。行。せ。ん。と。思。ひ。り。
ト。や。相。應。物。の。え。つ。う。り。う。も。ひ。り。へ。る。人。れ。石
公。く。う。ゆ。り。う。も。さ。し。と。當。時。也。ま。玄。れ。功。結。互。
議。の。無。見。の。法。門。か。ゆ。く。流。布。も。佛。法。本。小。經
實。空。淨。土。教。密。禪。教。法。れ。義。理。ま。く。お
た。法。惡。莫。作。修。苦。奉。行。れ。教。の。う。う。ゆ。う。く。我。相
人。相。執。心。執。著。と。除。く。事。も。て。是。般。な。れ。よ。明
印。よ。ね。代。な。う。無。智。無。道。心。れ。無。見。れ。師。御。く
出。ま。て。法。法。亥。お。一。切。佛。法。の。祠。頌。懶。即。菩。提。

生死即涅槃。文もうまとうつて機法のあ
ひ解行のわう徳もあうべ。男女と兩部の大日尊
となうひてうりあふも。涅槃冥合うんとひか
て。不淨れ行。それうる審義の趣事。般若と
ひ傳へて。見邪念もとて。徳天
の跡とひしは。佛活れ眞財をもとめに。極死
模範すわい。むちくは人の殺すと。御よろひ。疫
病や。自害。隙縫ね乱顛倒。モハセうす。中大
事わい。冥加たぐ。後生うす。モニケテ毘陀地獄よ
高て。うら潮あく。又佛法あわてとあうべ
た。邪見のとが。とのまとまゆくなうべ。利
字護天等。うがめ修す。終く師函とえきて
正流の人。正見の師。うわひさ。なまひ活けじ。下。
末代はまえ云れ利益。と。身目出うべ。入惡刃世
身めり。うくわきまうべ

天狗の人は真言教ゆき事

奥列修行の僧。或山中の古き塗は家も。天狗の住
ううそと人云ひも。と。佛壇
ううそなり。坐れうろ坐も。坐えて山の裏
ううそ。人かくそとひり。と。佛
て。陰歎代下としおび。と。づりてからうす。白々

まゝなり。法師と。年一齋。よりて。小法師。家三
十人。よもひて。臺へり。入ば法師。小法師。家
庭へ出そ。あまびく。とつる。とつる。わそ
ひき。とて此信。や。拂房。く。と。と。うり。き
ねと。因ひて。作と云。拂房。は。隱取れ。下。じと。ば
仰うれ。よろしく。と。あらぞ。あり。ま。せ。と。ア
さんと云時。心安堵。一。て。そ。と。へ。う。ま。ね。み
と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
せをア。ア。ア。ア。ア。ア。ア。ア。ア。ア。ア。
じと。ひ。ぐ。離。れ。じ。じ。じ。じ。今ハ。か。く。離。れ。ぬ
じ。じ。じ。じ。じ。じ。じ。じ。じ。じ。じ。じ。じ。じ。じ。
あり。び。ま。い。と。う。り。て。曉。山。の。が。り。よ。す。め。り。
併。勢。の。圓。教。或。山。寺。に。如。法。經。と。を。と。な。ひ。る。
満。く。もの。才。み。れ。見。つ。く。も。め。く。る。く。み。が。り。
う。れ。が。一。あ。日。る。ま。く。臺。れ。え。と。と。と。と。と。と。
た。く。み。く。り。き。と。た。羅。尼。滿。く。う。て。が。心。に。
感。ぬ。そ。そ。か。と。き。り。う。山。外。ど。す。よ。う。そ。そ。
时。乃。か。と。い。近。く。い。安。樂。ち。と。と。の。山。裏
中。へ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。り。ぬ。老。僊。れ。八十。あ。ま。う。あ
ぐ。世。に。貴。け。か。く。甚。中。の。も。も。と。か。く。と。が。向
ひ。う。あ。く。よ。う。そ。そ。じ。み。く。も。と。か。く。と。が。向
ひ。う。あ。く。よ。う。そ。そ。じ。み。く。も。と。か。く。と。が。

一
く見てゆくやうね。山外をまひとどり。
あくわくしてゆきたりぬれ。そぞろうりうて。
もくゆひやすすみゆう時。山外とも奥さむ。
さんとも秋めふつじ。あくわく目も。せんり
おで。そぞひよのぐりて。山外ともみかみり
て。すみそひにぬく。おどくくあても。そぞひと
く山外よなりて。えあそびる。毛像の山外
まくへまきと。じく。いふはばらとそそ
げて。あうそ。そく。くめ山寺へくでの
りと。うまえ。とくまく。うながす。くくく
くくくく。うながす。天狗。しる。聖教の
山寺のくまく。くまく。うながす。山寺の
そく。佛法者代中には。破成無慚の者。おり。
じしく
ひそく。ひそく。おもべ。お相橋。幡若利。諱媚。業。佛事
おもて。難難。じくのとく。かたう。下。あ
の奥福寺。学道をり。他界の後。彼生れゆく
く恩人。才人。當時。日望して。師道より。あ
ひる。わゆ房。我生れと不審ふ。おもて。おもて
ある。三面乃怪湯あり。かの師が傍へびへて。お
居。我生れ宿ゆとえ。さて佛事。講行。なぐや

えても。而くよ法眼とちる算本もえ。落葉と松葉
えんじをもて。問答とれずつゆの。其のり
そくしり。是ある金。ありくうしてか。でう
くらも體の物。でこそもあり。ごくも元原をもれ
けらかりて。がくの中よ。ほゞねれぬのわたり。そ
くよくみ入そく。うりあくをまう。便ど
よくまし。もも川をげなう氣をかづ。ふきのと
全くがて力やりくとも。と計りうて。よびひとく
蘇生そせして。傍へゆりて。私ホ名利の心。とく。佛法と
身手。のりゆく。よ。よほくはくくかなりとつひを
れどりやう。佛子は佛子焉。云請うんとつ
めりめり。がく事。アリ發心。くちを口をやう
りそく。がくやもたくらくくさん。そくま
左方ハ圓えん。て魔界とあれとも。善惡不同なり。
佛法と陰いん。あわせ。相親心つゝ。こう者ハ。仏法と
親を仰あお。世人れ行もと。障界さう。尋さぐ。て。酒
お。まくらす。なる。佛法と陰いん。偏へん。名利
慳惜せんせき。まくらす。地。若根わらね。と。あく。まく
離りもとと。かく。まく。まく。師し。まく。まく。師し。
天狗てんぐ。より。がく。めら。と。すれ。祕法と靈符れいふ。すれ。す
まく。まく。まく。まく。まく。まく。まく。

三身をも行ひて。三身の難を下へ。難
天狗。天狗と云事あり。げ形也。ととむのふ行の
苦氣よもぐ。華嚴經の善根心をも行と
ぞ磨業とつう。祇観橋陽心あひまつ。凡
れいさくそばは道よへゆ。淳淨れ心とありく。
かくし心とく行どく人の心との道よへ下。
かくし心とくはりきとく行もすくみなり。やまと
りきはたゞれとくよいたぐ。因果れ道行
たゞく。我心行とく。く報。て。あまの
果報ハ吉報。苦因ハ樂の果。惡因ハ苦の果。
視。南山の葉疏の中。六福。福ねま
る。業。愚痴。ねまじひとされとつ。福。と
よ。又。魔鬼。とつ。こまをなれ。天子魔鬼。地
化。り。至天なり。愚痴。よ。ひ。の。教教。教。る。
圭峯。釋。は。傍行。の。相。とは。畜生。や。ひ。豊
経。の。の。と。は。愚。と。よ。と。も。く。孟蘭盆經。高
疏。中。一。有。愚。祚。事。ハ。重。く。果報。の。傍行。方。あ。つ。と
み。く。う。毛。と。ご。行。因。の。淺。深。事。く。な。ふ。ゆ。く。り。
じ。一。ス。百。長者。山。中。あ。て。だ。に。ま。く。て。つ。き
の。ぞ。う。も。持。本。食。と。づ。て。と。き。ト。あ。く。り。
え。た。う。本。宿。食。と。づ。て。と。き。ト。あ。く。り。

其中のちかく上毛毛とて。音とあぐくり。樹
神其ゆふすよ。我は体ちり毛とて。て。我
て。我一人へりりゆつ事とて。し。とて。我
は食ひく。がくば。とくもびくら。とくわ。
とく後アひく。はのちる。とくうちて。わくまで
毛と毛りつ。もくい。かく因縁を毛。ば果熟
ス。とくうふ。もく同。神うみて。く。述
佛の時。がくとそぞくせとや。本城の門を前
よそ。げまことや。毛食の波つわき。分衛。と
くうとくの。我食め。て。わくとそく。毛食
く。毛とく。毛。業。園。とて。ゆべく。飲食とく。ゆ
はく。くふ。ゆく。とくひく。ゆく。汝つと傳書。とく。業
因。貴。とく。伝。とて。日。に。八。千。九。傳。と。傳。農
一。之。れ。事。ば。あ。よ。汗。流。て。河。と。な。う。と。て。事。
う。う。う。汗。う。う。う。う。經。の。文。れ。意。也。毛。毛。鬼。神
や。つ。ど。も。果。報。人。毛。と。と。う。被。う。分。衛。と。毛。毛。
食。毛。梵。語。毛。毛。

波石集卷第八目録 下

志乞功績の事

報はる堅固をとれ清よもと贈事

貪窮退歩事

耳癡人の事

先世房の事

沙石集卷第八

ト

真云功德の事

洛湯れ。車山觀侍。大圓房。上人。寔蓮。平隱
尼の德。が。すゆつ中よ。あひりき。女房。地う
ひきりきと。じ活羅尼と。もやーて。加持。や。きり
め。めくと。んき。かく。と。かく。も。それ。うらえ。ま。と。ひ
う。も。中。一。病者の。く。と。う。り。痛。ゑ。ま。く。と。あ
ひ。て。ア。リ。つ。わ。か。心。う。や。仏。法。ハ。人。と。そ。た。ど。の。持。よ。に
我。と。く。た。く。よ。の。せ。め。経。よ。よ。我。ハ。お。れ。い。を
づ。ア。の。ご。と。咒。咀。ー。て。せ。む。わ。く。う。経。く。ご。お。清
め。の。娘。市。本。の。度。と。う。を。修。う。よ。あ。ま。の。意。

呪咀

也。あはれ。うそ。人間の我身何にて。畢竟
すまへて。やひつ。身度多く。まことに多
く。老僧行也。ありや。ばね。うりよ書付。うり。
御のも。うり。うた。うす。あう。と。虚誕。ハ。いき
す。ゆ。ば。ハ。佛祐。ハ。徳。陰。羅。尼。の。陰。一言。も
虚言。ハ。ゆ。三。妄。ハ。見。有。す。後。見。う。ひ
終。よ。と。な。き。去。ゆ。弘。安。元。年。坂。东。よ。疫。癟
あ。ひ。い。い。い。い。病。死。教。え。ば。ゆ。う。十一。歳。の
小童。の。や。め。り。う。小童。難。ば。ゆ。く。あ。り。と
か。う。り。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。
傳。ど。す。冥。人。不。え。子。平。治。羅。尼。と。二。十。一。五。滿。
約。り。う。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。
ミ。モ。だ。く。と。ま。り。ね。え。ち。く。ま。ま。か。う。う。は。佛
か。う。て。と。ひ。く。い。ほ。く。と。か。く。み。や。て。福。度。て
り。ゆ。り。ま。南。軒。戒。壇。院。の。傳。の。う。り。仰。
或。在。あ。の。女。房。靈。窟。あ。り。と。千。年。後。羅。尼。を
みて。う。り。お。り。や。う。り。う。り。物。と。も。と。出。て。ゆ
う。り。又。或。女。人。が。う。り。よ。お。う。り。傳。と。の。目。り
みて。蛇。う。り。つ。ま。勧。く。づ。つ。ゆ。く。女。房。う。ま。金。
う。り。う。り。う。り。う。り。其。女。人。う。り。ひ。腹。う。ま。金。
う。り。う。り。う。り。う。り。う。り。う。り。う。り。

故実相房上人もまことに有る。ゆきの勘定
有りつゆよ。白川は或人のじとも。腰中よ有る。
平繩の程よて。るれもくらまく物も。疼痛もそ
即ちりつぶ物うちひたりうと。彼もやあげまそ。
亥を房めば。うとす。呪咀也もあそ。病もも
らも。えまに。智めく。腰もく。かうん。など
之もん。どぬせんうそ。大かりりよ。煨とのそ。松
わ勞一もいふ。うて。壇あそて。不動の
穴界れ。呪誦。」て加持もうみ。腰中あくく
なりく。がのあく。うて。うり。其ひりかのむ。上人を傷
おもあく。せあく。うく。ほんあり。うき
うと。がく。傳へ。うそ。或傳。和く。は
ア。此上人。午。月輪觀。月輪觀。被。夜。
中。消息。うんと。うり。びきのまく。まく。か。手
取と。うん。うち。うり。まく。まく。手
人。うそ。やうれ。効。殘。あ。うそ。うそ。うそ。
伝。うそ。道。うそ。うそ。うそ。うそ。うそ。うそ。
うそ。うそ。うそ。うそ。うそ。うそ。うそ。うそ。
うそ。うそ。うそ。うそ。うそ。うそ。うそ。うそ。
うそ。うそ。うそ。うそ。うそ。うそ。うそ。うそ。
うそ。うそ。うそ。うそ。うそ。うそ。うそ。うそ。

我夫。身の情ゆゑ假つて。わきものとがひは。
おとどもとてそくはいがはれ。すくられぬよ
ともは。先程せむなまく假つて。さてアガリ
とつよ。ば事。那活の假り。細体の法ハ無能と
にて。テ下れ怨うるのと相体。こうとあすを
すをあも。くみくみ心うてこうれい。おとよゆき
らば。お旅くそくへんる。ゆくへん寵と思ひく。
令はのすくま。おめれんとそく。毛一毛今あ
もあくとづく。もろびく。假つてえきり。
其後事りてり。未代など。まよふる功
鶴ハハリ。七日して。かく殺して假つて。九
あさゆり。く思へば。かくよび。まよふる事。そは
里に。假つてほとくん。其る。じう。う
ド。然も一れすまよ。りくくれ徳とゆくうか
きゆき。余とく。おとく殺さん事。うが
をうべ。もぐてハム法の徳とぞ。世間のたゞうか
心ねが。やれ薦と度す。藍のものとぞ。しもが。人
じてあきら。目か。うるま。うぞ。御みゆきう
おはり。あうつり衣ハま。いと。も。やも
りとやうべ。藍ぬとそく。ばといんハとろうなり。
佛法もかく。と。羅澤とゆく。摩耶とゆき。

さうりともとある事。まことに云ふ所。ま
さうりあつてうさび。どうかうて徳せん。法の
じくをしかけて當時。其もアリなく。あれゆき。
衣れあつてうがで。念佛の功徳と。
祖師釋もうる。と此くうとれたので。顛倒
のつらん妄想の不作が也。是虚妄なり。是
念佛を行はれ心にまことの精緻あり。右二は。一
虛也。一實也。故念佛の徳は多劫の徳との
じくなり。又云。仰承。て。とく。泥摩も幻也。
真云。加ね。幻あれども。於惣妄想。顛倒の幻。一
向す。虛偽也。真云。幻。金剛の幻。されども。

之より。幻体師。現され幻とは。アリ。幻
術師。是と。アリ。アリ。と。アリ。產生れ。アリ。ア
れ妄想。幻とは。能れか。アリ。幻術。と。アリ。ア
失ひ。アリ。アリ。法事。アリ。アリ。づ。法
門也。光徳の教也。佛法の道程へ努力。疑へ
熱心の堅固。アリ。も。佛法。アリ。騰事
事例。或入。法師。念佛の行者。アリ。アリ。
去弘安元年。疫癪。よ。療終。心よ。死
セ。火葬。アリ。アリ。が。アリ。アリ。アリ。死
す。大。死。アリ。アリ。物。アリ。アリ。本。アリ。アリ。死
金。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。

でなく。子恩の傍毛と云ふ。執心のかこすりを
廢りぬ。やへうか。此腹痛をうそも。ば。炭末を
すく。あやーと。もりひて。じ。天竺。不道
を乞う。考見と起して。ふよからて。もりひと。伝
才の量と云て。石川面よ書ふ。もとて。石川よ書
也。かうり。ば。事画ひ。りて。般文の差く。祿ども。
執心かく。う事やきと。もりひて。幡れ足の舉
手。徳行無の四句の文と云ふ。かく。こり。上
紙。う。つまえ。はと。り。うやう。る。く
し。わやかく。う。か。の。便。ま。の。る。

里地。一。そ。勢の首の量立。う。文と。だ。と。ゆ
約。未代。か。下。佛法の功徳。り。く。く。と。そ
約。ゆ。ゆ。而。て。ゆ。く。観念。度。猿。せん。人。執心
も。う。り。而。達。も。漏。と。テ。う。く。く。く。量と
立。と。云。ハ。圓明の法門。へ。外。道。と。破。と。疑。ハ。圓明の
名。釋。宗。圓。喻。ハ。三。と。り。そ。義理。代。成。と。う。な。う。劫
毘。羅。外。道。常。見。と。か。う。て。大。な。う。石。よ。た。れ
す。と。陳。那。菩。薩。量と。云。て。石。に。う。く。く。石。か
え。く。破。て。え。と。う。く。汝。我。無。常。就。受。外。行。故。因
尚。如。聚。雲。喻。聲。論。外。道。も。聲。ハ。色。秋。か。常
住。の。法。か。う。と。計。セ。と。佛。原。子。量と。云。て。云。

聲是無常。不作所滅故。因猶如瓶等。喻先年。
南都。是作。或人氏。故明。上人。志。繁
大時者。不。非。向。萬。子。方。之。一。而。則。之。
ノ。の。ト。モ。ア。カ。モ。セ。モ。リ。ハ。バ。約。ノ。程。ハ。修。應。
八圓の山。事。事。ノ。縁。わ。り。て。越。約。ノ。ヨ。モ。
大。辛。夷。化。花。と。と。く。ば。あ。キ。ゆ。ひ。て。約。リ。モ。悟。
道。得。法。も。か。や。や。多。そ。約。リ。ノ。ク。南。教。リ。向。
多。び。な。ま。と。く。約。リ。ノ。同。法。れ。り。人。量。と。多。く。
首。選。う。と。事。約。リ。モ。四。い。出。く。約。リ。モ。は。
つ。こ。う。る。の。多。の。と。書。約。リ。経。つ。我。是。大。時。

者

宗

解

非實故

因猶如大。辛。夷。

喻

様。然。本。律。傍。と。之。多。妙。大。師。者。又。や。如。ノ。ル。比。
と。よ。う。と。事。つ。る。所。と。つ。へ。自。經。非。因。明。法。門。
新。無。智。意。故。因。如。畜。生。味。因。門。と。云。之。め。の。
一。が。う。と。菩。薩。じ。え。と。明。し。べ。ー。と。云。因。明。外。道。の。法。
内。明。弘。の。法。聲。明。醫。方。明。工。巧。明。也。遠。列。蓮。養。
房。と。山。ち。法。師。前。裁。母。柿。の。本。と。う。て。ま。東。
廢。ー。う。が。他。累。の。ら。才。子。凡。僅。ば。本。と。切。く。
湯。本。よ。せ。ん。と。て。こ。う。て。た。う。よ。文。字。代。勢。二。寸。で。
う。そ。ま。き。本。房。と。文。字。有。り。又。本。と。あ。く。
ー。あ。本。の。中。わ。づ。き。と。ま。く。同。狩。と。て。ま。る。

乞を執心あるをうるや。和列の或山寺法師。竹
と愛^ホにて行^{ハシ}じゆ。筆^{タク}の時。我もくわび。人^{トモ}
あふ^{ハシ}て。病死^{ハシ}て。後中陰^{ハシ}はすすと。筆^{タク}
を。傍籠^{ハシ}の菜^{ハシ}の汁^{ハシ}よせんそ。りうて。乃^{ハシ}う。一。
歌^{ハシ}き雲^{ハシ}む。のうりうり。師^{ハシ}。妄念^{ハシ}の。ゆし^{ハシ}と。ゆう
くうく。喜^{ハシ}はる。りうく。かんちう。ひ^{ハシ}。も。擣^{ハシ}
の事^{ハシ}ばあ^{ハシ}。地^{ハシ}と。ぬく。ひ^{ハシ}は事^{ハシ}。う。
又^{ハシ}縁^{ハシ}へ。く。許^{ハシ}れ。中^{ハシ}。小蛇^{ハシ}。ト。ねうて。有^{ハシ}ゆ
一^{ハシ}。徳^{ハシ}。ひう。執心妄念^{ハシ}。むきうぐ^{ハシ}。ト。く。流^{ハシ}物^{ハシ}生^{ハシ}
死^{ハシ}れ。や。ウ^{ハシ}。遂^{ハシ}。す。事^{ハシ}

貪^{ハシ}窮^{ハシ}監^{ハシ}出^{ハシ}れ。事^{ハシ}

尾列^{ハシ}。考^{ハシ}淨房^{ハシ}と。つ。傍^{ハシ}わうりう。ま^{ハシ}のく。修^{ハシ}
わ^{ハシ}に。矣^{ハシ}窮^{ハシ}だう^{ハシ}すと。行^{ハシ}げ。え。淫^{ハシ}湯^{ハシ}
を^{ハシ}。ハ^{ハシ}玄^{ハシ}云^{ハシ}れ。わ^{ハシ}る。坐^{ハシ}修^{ハシ}。う。御^{ハシ}あ^{ハシ}
え。オ^{ハシ}み^{ハシ}。少^{ハシ}。仰^{ハシ}う。事^{ハシ}術^{ハシ}。う。り。き。今^{ハシ}を。矣^{ハシ}
あ^{ハシ}う。よ。矣^{ハシ}う。事^{ハシ}術^{ハシ}。う。り。き。今^{ハシ}を。矣^{ハシ}
窮^{ハシ}と。ひ^{ハシ}。か^{ハシ}ん。と。思^{ハシ}ふ。う。と。そ。十二月。晦^{ハシ}
れ。長^{ハシ}桃^{ハシ}ろ。桺^{ハシ}と。我^{ハシ}も。ち。オ^{ハシ}み^{ハシ}。少^{ハシ}。法^{ハシ}。い。も。我^{ハシ}
て。兜^{ハシ}と。涌^{ハシ}。い。家^{ハシ}。内^{ハシ}う。ひ。オ^{ハシ}は。我^{ハシ}と。を。よ。や
事^{ハシ}。か^{ハシ}く。し。今^{ハシ}。矣^{ハシ}窮^{ハシ}。む^{ハシ}く。か^{ハシ}く。そ^{ハシ}。内^{ハシ}。其^{ハシ}
衣^{ハシ}。矣^{ハシ}。身^{ハシ}。也^{ハシ}。門^{ハシ}。と。か^{ハシ}く。そ^{ハシ}。内^{ハシ}。其^{ハシ}

うにあく。まほつまど。とせゆを出ま
うり。作とて。雨のあく。まほとみそ。教
津房。あまをうる。英彌法師。がまよか
みとつ。さにまび。うつ。まほとくとく
う。まほり。まほ心をうべ。うそ。其後。世間
事。うのじて。すうりと。傳へゆり。まほ
す。富。おもひ事。うれども。今生れ。善行。
精。うめく。もあづき。や。或山寺法師の
中。まほ。まほ。うり。他圓。あらゆん
と。師。まほ。ひれ。や。津房。一木。入鉢。ハ。代
く。と。外入。ハ。云う。有漏。法。ハ。般若地
各別。ト。作。ゆ。や。若。あ。と。あ。ゆ。や。又。わ
便。も。矣。せ。う。きて。他圓。ゆ。ん。と。せ。う。ゆ
長。ゆ。め。に。便。ぐ。わ。う。小。と。じ。や。わ。う。ゆ
に。う。て。序。伝。け。う。ゆ。と。ひ。う。誠。う。伝。法
ノ。相。強。な。ん。ど。と。と。う。う。良。と。の。多く。よ。う
え。と。まれ。つ。さ。あ。果。報。ハ。ん。せ。の。業。よ。こ。と。あ。業
ノ。果。報。ハ。と。生。の。業。よ。こ。と。あ。業。よ。こ。と。あ。業
報。自。生。う。と。津。太。吉。櫻。の。と。こ。ひ。絆。ぐ。と。
も。と。あ。ま。ま。う。長。賺。の。身。恵。く。へ。果。報。と。う
き。じ。へ。ば。開。ウ。女。と。ま。り。と。天。下。承。た。と。ひ。る。

きしとぞへとおがりゆく思ひをなす。日辰
すとせどそー一筋の徳うてこそ徳と思ひ。
初日ノ出候よ。じとめとりうてはんめうちな
だくへはまくせんとす。我ハ世間とてひ
徳わきよ。かくわひのほどむろもあくほ
なり。かくとてよもあと徳より徳を。ゆくゆ
よとうひてよもあきのありよあい。ひく
に。我ハ日月光ととかくと徳わきどす。徳
よもあきを何ともす。徳とひよや
とひよ。よもあひひて。山風の吹き聲よじひく。け
い。我ハ空とよもあひ。空とよも吹きひく
徳あきす。築地めあひ。空と力す。徳あき。築
地とひよ。よもあひ。空と力す。徳あき。築
トヒよ。よもあひ。空と力す。徳あき。築
築よ。よもあひ。空と力す。徳あき。築
て。徳すと。何よもぞれすと。徳すと。よ
もあき。よもあひ。空とよもあひ。空とよも吹
國の麻人まじんがももる。築テの國の麻人まじんがよ。うりにあひ
うりうりうりうりうりうりうり。が。國すと。ハ人ももて。あくく是
系の方行て。たれ人と夫す。夫よせんとくつ
くりよれぶ。ちねんをもてゆきつまく。たゞひ
きくとくとく。かくひもうて書夫よなむ。

うりをば。経すとへど。うりゆふがつへ。或入道は附
く地より。小本領初行セリ。時よりりどり
き。病者もて身ひ。腰痛も食事心よりれど。麦
飯あんじ。子まで心地あく。仰り。安童節
衣よそき。一が夜よそきて。ひがねく。ちやうま
み。小神と肩よろひて。足冷てつひり。りども。安
童あとも。林毛を仰り。一が。不紙得塔のくら無。
毛。暮病にさへ。て。惟。紙衣さ
てゆう。身じり。食物ハ何。もわう
とも。麦飯あんじ。耳病とえど。はうりと
え。只天童。いぬをもく。が。ひ。鶴。く。夏

れ世と。幻の身と觀。て。末世得脱の因
と修とる。

耳賣人の事

奈良時代の学問。元經あんじ。もと教人。波東ト。
あつて。学頭。そ。仰り。或上人。アリ。二日
路ノ所に。猪用有。老祥の身め。く。仰り。奉し
ト。さん。か。う。なんや。だ。し。佛事。な。ま。る。
而して。布施物。あんじ。か。ひ。か。か。レ。二三
十貫。身。ハ。と。ざ。一。又。或。社。の。神。主。有。德。な。れ。が。
連修。と。く。う。ゆ。ゆ。り。お。懸。う。も。く。う。ゆ。ゆ。る。
な。て。七。日。勸。行。と。べ。そ。も。も。猪。ド。は。猪。く。

くほう。奉一一一三元はお處わく一。三月一日。
か。毎下ならうともふ夷ハヤんじん。くくセバ十夷
浦くじせんじん。おうへーとせー。毛ハ一日の宿也。
何も一所内心もとまくと云。船とやととば作。
二日路まくつまで三十貫とうひんより。八日路ま
くりて七十貫ととを取作はるとゆふとて一日路の
石海とわくらしてゆきぬ。お息たゞくらる。老眸
ノ上病日久くつてだくこなぐれど。親子思
憂れ道思ひとてごく約り。先行後承。大般
若とよとて。遅修八月三仕くくじ在り。そ
野びり。さ生べーとくふ。年りく経つてる。

かくじ。大般若。才みた用く、
始く。遅修の外よ。布施もあらんとんと與ひ
て。用白一とし。酒。酒もあらんとんと與ひ
て。きづく。上戸の憂酒あれ。酒のじがんと思
つ。辛トヨウリぬれ。貴けよふつきて。布施
のくも。うそと思ひて。酒酒よ。そひかくこよ
うぞと。餅とうまつて。もくめけ。ば
毛とくらう。毛ハ般若の法味。不死乃
良薬也。じきくらう。毛ハ般若の法味。不死乃
良薬也。病者悦て。是ハ三寶。うり語うは。大般若
の内もくじとくこと。かくトあらくいと。

のまへてまよへ。八角はわ風もろう
ひやうれ。不食久一そよがとくやくよ。じせく。
らくとひづば。女房とちかつて、うからげとうち。
のんじふすまきとくふくい。やごとつまくまく。
事えきよみれじ。よざむかとよだん。いうほめと
よあくみくはつまく。とくべゆうじをひる。考叢
の時一そ。禁内一ひなあくま。そあぐりうをまく
かうり。船よりて行。山と宿に。あ
あくもは傍。じかくくとも無下也。りむ者
處安へ。そ。施物とせんそくは名と。馬
馬は。

まくと人殺一そも。どくかくとくまんじゆ
もせば。ごかども。用わくく波ぬく。一そ。そ
舟入海。うづべり。タ。夜ねねかんど。ハ皆ぬく。そ
あれねぞうり。かくゆり。うづく。くづくなど
かのくまうゆり。まそ。一石の布施。六千貫を
けりや。後よきくらうと。うづ。玉川の不
運れ。そそて。かくりてりのゆり。あ鄰まで
或人。そよ。が耳。とかくまと。す。用達。一要
文。ちうり。雜掌。そよ。ゆり。そ。りくそ
けす。そ。万そて。そ。ば。耳。ハ

まゐ。其後相人のうじんのあるまゝ。洋の耳うつくしのみみを修
とつまく。行耳ゆきみみとおやさしく。おもての耳おもてみみを修
福ふくもそも経おこりと云いふ。あの世房よのよしは、ハシと
黒くろくゆり。物ものをそなへが耳みみす。と。相
してとよ。こそハ明年あすの春はるの種たねす。ば。收
え。と云。耳みみの傍そばと相あわせて。拂耳ほみみ
そふ福房ふくぶは、んじ落おちひ。其その外ほか福房ふくぶは、んじ落おち
も。と。そ。思おもひ出だす。拂耳ほみみをたう放
ふ。が、あ不幸あわれわれ。あらかとぞ。かくうに。ゆ
め。そもううふす。かれぞ。かほ事ことも。あうり。を
きり。す。落殿おちでんより。うづく。落殿おちでん。室相むろあわせうづく
ふ。うづく。落殿おちでん。あひもまれ。作つくらう。うづく。ま
三月さんげつを。や。と。うよ。う。くと。うづく。が。う
け。と。そ。そ。甚ひどき。う。う。と。う。ひ。て。落おちと。ゆ。ば。
か。ひ。く。う。り。そ。れ。よ。う。落殿おちでん。よ。思おもつ。ま。う
や。く。う。と。そ。う。う。り。う。ひ。ゆ。も。う。き。そ。耳みみ
う。う。よ。う。あ。う。う。ま。ま。て。み。耳みみ。う。う。修
次つぎ年ねんの春はる。不ふま。ま。う。う。く。う。り
先さき世房よしの事こと。

ト總そうの圓まん。先さき世房よしと云い者ものあり。うづく。下地したじの者もの
アタマあたま。心こころ。根ね。筋すじ。力ちから。事こと
も。あく。万事まことに。不ふ付つけて。先さき世房よしの事ことと。うづく。が。

りもまろよ心をうりきよ。或時家にやつまく
うわうきをいたせの事とひてさへだ
してゆきりされど、まやとく人手とこりで
いき出で候。元もと毎のゆうとておとかり
りきば。世廢とひきうちうべ。ほとよゆ
も。まの善惡の業因よりまて今世の美福苦
樂あるとあらうたう人びとうとあらば
て。人わふはすとく思ひあつ。三界ハな
心ちう心はかよ別法うと云て。無往の心う。
六凡四聖の十界の後正と云う。化
地獄鬼畜と云。菩薩の徳て。淨山菩薩と
らう。法性の一體八平等をよもぐくの業因
よもぎて種々の差別あり。一は水火天ハううと
凡魚の靈毛とんじハ腰河とんうぐゆ。
もううれ津去と。身みハ樹木とん。螺髻ハ津去と
うう。じゆよ境縁は好観た。好観ハゆうる
ううとつり。まきとも百丈と。業因縁と思
う。不祥死難わむとも。人ひとがくじへば。
志かみ人のくみとのくらう。うみばくと怨
とじうる。うとくとくううり。徑よつとく。う
をりうそ怨と報もとう。あくつめにほきば。草と
ぬく火とりうげく。恩とぬて怨と報とあを怨

つあよつて。水と以て大とりうがどくと。まゝれば
じうれり罷済と懺悔し。今更業因とじとゞべ
て。悔過れくりんとやじぐ。或上人ゆゑ。一切の境
界へ我心よりうて苦惡あるも。我心よりうて時ハ塵
絶也。我心悟時ハ法く實わく。古人のゆゑ。一段羽在
眼。室花乱墜。一妄在心。恒歎生滅を。我身不い
名を思ひきわら事有。う後づ物の蚕て。うへども
すりあうき。只事だをそとどくして。磨縫て。我有
もと思ひて。お佛壇よ入て念诵されど。ナリ多
もくまく。念降りくす。もうもくお佛壇とあ
て。何とかく。ソリと。まかあぐ。うきと。鼻ハタ
蚕の糸でねぐら。そそぐくとくさわくの後。お
くまくもうち。一切我心なり道理。たゞ。まくこか
りきを分明とく。漢朝よ北叟とく。賢人
有たり。車によまとて。憂愁。やうな。或時只一五
うくする。うせに。うり。人毛とく。ぬふ。づきとく。終
くよてき事。あくあく。憂て。きゆうやと。よ
あ三日。の後。天ト。サナリ。かく。駿馬。とく。て。來
れ。人もとく。うき。とく。どく。も。も。憂て。きゆうよ
やあくんそ。と。よ。後。よ。事。や。最。憂。の。一。み。ば
馬。車。けり。て。あく。よ。程。に。為。て。むり。とく。り。わ。く。人
の。主。強。う。う。ゆ。毛。も。う。う。う。づ。く。ま。う。や。わ。

うんそくの事どか。かは往る。天下の大礼とぞり。
て。喪主が。もとお取の間。皆りびへばよこり
によまで。余とゆくも。ばほり。思ひあら
が。老母の。禍ハ。いの。伏所。福を
き。ひづかと。うとう。意。人。うだ。年
もつ。一。か。徳と。か。バ禍うり。あくまつて。
老。禍。あ。う。ま。バ失。と。う。う。年
と。善。と。候。一。徳と。か。う。下。と。と。と
れ。す。た。一。禍。の。う。う。ん。事。と。し
る。万。事。と。徳。失。と。わ。失。と。と。と。
徳と。廢。一。て。余。失。と。わ。失。と。と。と。
の。徳。と。三。く。一。人。常。の。常。徳。と。あ。の。て
失。な。く。失。け。と。あ。く。得。な。失。事。と。と。は
又。万。事。と。も。わ。く。一。よ。う。を。附。で。う。て。得。失。
く。あ。き。ハ。何。な。う。の。業。と。と。あ。ん。と。の。き。だ
ぬ。つ。う。事。と。ハ。あ。ま。く。い。よ。や。と。つ。よ。毛。ハ。三。つ。ろ
徳。あ。う。業。と。と。あ。ん。と。の。き。だ
其。ま。く。と。つ。よ。一。よ。は。産。孫。の。時。れ。と。あ。く。が。れ
と。う。う。ま。と。ば。無。長。り。と。と。ば。一。よ。食。よ。あり。ほ
内。服。と。れ。も。食。消。一。て。身。う。心。あ。う。う。う。

一不發。不發よりう藥也と云時。こそ「急病」りひ
ト。もうちの終日はえ仕にて。來ても見ゆかぬにて
附え。れづくもざうりん御なぐべ。又わづる
と。ひ。夕飯が消すゆりく。もざうさとむいぐー
と。も。又不發よりうをひきば、女童教がをもつて
もせり。べくひそどして衣冠のあももくぐれ
らうと云。乞一つ事の。人よろみて得失あり事
なう。あひゆる。日れてもうす。時よりそへぬきゆ
もあり。卷なりうるもあつ事ありて。又在
間もハ。乞。思は事。おせし。失たりゆめり。
せり。もハ。思し。もあつ事。伝法をへてはゆくゆ。

もくと德矣。物とみね善。又。涅槃經方
よ。一。譬言喻。と。う。或人の家。門。容貌美麗
なう女。人。ある。わ。何。なう。人。と。同。女人。益
て。の。く。我。と。は。功德天。と。云。其。ゆ。ハ。づ。る。あ。に。
吉祥福德。有。と。ゆ。あ。下。悅。て。清。の。則。又
女人。有。容貌醜陋。か。て。だ。あ。く。行。だ。う。人
ぞ。や。向。我。と。も。黑。闇。天。と。つ。も。の。ハ。づ。る。而
不祥灾。害。あ。う。と。ゆ。あ。う。一。光。と。ま。て。ど。も
う。も。と。り。よ。そ。れ。の。そ。く。そ。れ。よ。お。入。ひ。ま。姉
か。り。す。と。して。そ。あ。う。事。な。し。姉。と。う。ぐ。る。
我。と。う。ぐ。る。我。と。う。ぐ。る。と。り。よ。乞。ゆ

うもく二人ともかとひかづつまくゆく。或
人ひ事ときたとつとあひとあひしる故
りとよもじ。心とたよひと生じと奪ふと。
ありて。死と離とば妹よ仰さり。生死のと
離。會者定離。ときうそとうきうそ。このア
愛。聖は生れ因とよめ。死は苦とよめ。わよろ
えと愛せどして。かく。二不
り。ひとへて。尼丈は生びとよびて死を
あ。い。かとありて。かく。とよきよ。ふくを
死と生れ因と。離と会は附うきてよ。

命とよろづび離とよきよ。ゆとよて尼丈と
ろうすううう後から。流物生死を愛敬と恨
み。すねり。や情かくハ生死別後せん。先世の
愛心とやう。法愛またもよく。尼佛法よ
方俊ナリ。の愛わる懇心のつむぎに思ひとやえ
妄念寂靜。アスナラタヒテア。もと實れ。ア人集
もととやか。ち人れでく。心法万境。極く處實
法萬法流總。性喜亦至。憂云生滅。去
來の不。が來動せされ。性と徳。ナクは
生て。あそ不生なり。事は即して。空り。里
とひじ心。ほと。心。保矣。アラカノ。はと

あて。徳わう事カあるとめんべて。憂愁カとうと
く。失わカりんとまよ徳カんべく。憂愁カとろ
くと下カ。毛カまは方後カり。事カとめてあり
とたまカ。あうす。あみだんとくれ心カ。あひが
ぬ。心カやとくへんはぬとて徳カなま。運き
えをえどもくへんかカり。ととめぬ意カさ。心の
毛カトあく。身れカととめ。身心カすら。もがた地
車カづつ。身カ變カへぬとたうゆカなり。とてあカじ
る。三変カ徳妙カの駿田カと。供せカい報カらカ。父母
師カと。恩田カと。もがり。せんわうじ。身カ變カ
駿田カと。じたとおり。言カおどり。じう心カ

く徳善カよつよほカて。ゆりか。今生のりつカいを
ねううう。南カまのうすカ。うどうをなしん
際カ終カの妄念カ。ううう。愈カ變カぬカり。かこま
ゆく。若患カようかカ。う。じう。又戒カれうを
そく。わうう。おひ思カうつア。憂愁カのうりを
ゆへ。死カして後。つむが鼻カの中カに塞カれしまつ。代
月カ鼻カとくと。おのまとく。おとくとくと
も。時カより聖者カわうまでえとえ。海カが丈カり。のあく
こゑとく。ううどとく。書カぐ云カ。わがまハお成體善
の者カ。天カよ生カ。一。うんぞじカとあくんとえ。

聖者曰く。窮後きゆうごの爲ためて。死死び生うい
感かんじ。もつて法ほとくに。しして死死んで天あまよほしと
之のを日ひ本ほんれ成なる。固たもり。聖者せいしゃの祕法ひほ
の爲ためて。天あますら生うい。のの人ひとは善よ因いんきよ
く。ああ念ねんひつつく。書かふる。愛かわりぬく。
生うきとそまきまきん事こと。聞きてとかくこうべ。う
く。心こころにうみみんす。行おこる。然しかなう。死死のう
く。うよゆきゆきく。めめめめとみて。ばくうこく。たう。
乃のく。みみややく。りききだ。命めいととう。か。憲けん廢ひ
れれたう。うき境界きょうがい。晉きん國こく。義ぎ。君きみ
よよ。御ご。也よ。中なか。い。彼かれからからある。い。

氣き藏くら。下さ。毛け毛けたた。毛け毛け。也よ。氣き藏くら。氣き藏くら。
うん。章じやう提てい希き。國こく王おう。惡あくみみあひ。穢けい
とと。之の。悔くや。去さ。不ふ。稱めい。之の。不ふ。也よ。也よ。
其その實じつ。若わ。藏くら。不ふ。人ひと。賢けん。とと。也よ。也よ。
とと。也よ。也よ。又また。時とき。也よ。也よ。也よ。也よ。也よ。也よ。
也よ。也よ。也よ。也よ。也よ。也よ。也よ。也よ。也よ。也よ。
牛馬ぎゅうま。賤せん。毛け。也よ。也よ。也よ。也よ。也よ。也よ。
也よ。也よ。也よ。也よ。也よ。也よ。也よ。也よ。也よ。也よ。

人れはもつてくまく。心つかう事すまづ
まのへぬ。一ノノビテ。つゆよりうゆもじ。當時
大切。うぬかくとがふかく。人みよもあよ
一ノノビ。豪傑ハセリ。失ひもくか。とあつ。檀
度れ行もつまうかく。又世間は人の富をかうと。
貴賤をうし。徳思ひくづく。得失あひかく。
又。一ノノビ。因ひうり。多賤ハ得失あひかく。
古人のうき。富則求多。貴則憂多。事
寡心泰。情志累薄。と云。又いそく。清貧ハ常
不たの。濁富ハ恒か愁。と云。又云く。賤多
けむじ財と害。名高乞れを神と害。

ち云ひ奉トハ。大安樂の法門ナラモ。一ノノ
因ひ入修よ。一ノノビ

汝石集卷第八下終

神護寺　迎接院

正應第6天皇仲夏初一日於洛陽土御門浦
路書写之　ヘ

片山貪士

乾元第二暦癸卯季春之候此書道證上人奉渡畢

道慧

